






**妙高市総合計画審議会
評価結果(令和5年度)**

令和5年度施策評価(第3次総合計画)

1 施策の概要	
まちづくりの大綱	1 快適で安全・安心に暮らせるまちづくり
基本施策	1 生活しやすい都市環境づくり【生活基盤】
関係課	総務課、企画政策課、環境生活課、市民税務課、観光商工課、建設課、こども教育課、生涯学習課、地域共生課、上下水道局
主要施策	1 コンパクトなまちづくりの推進 2 スマートシティ妙高の推進 3 道路ネットワークの強化 4 雪に強いまちづくりの推進 5 安全で安定したガス上下水道の維持
	    
	R5予算額(千円) 1,793,917 R5決算額(千円) 1,583,034

※矢印は、目標値に対する方向性を示しています。
 ※指標3、4は目標達成率がマイナスとなるため、0%と表記しています。




2 施策目標の達成状況		指標名	単位	現況値	目標値	目標値の根拠	区分	R4年度	R5年度	目標達成率が70%未満の要因等
1	指標の説明	都市機能・居住誘導区域内の人口密度	人/ha	24.3 (H30)	24.3 (R5)	現況値以上を目標とする(現況値)9,734人÷400.5ha=24.3人/ha	実績値	22.4	22.1	
		都市機能や居住の誘導を図る区域の人口密度		→	目標達成率		92.2%	90.9%		
2	指標の説明	都市機能施設の誘導件数	件	— (H30)	2 (R5)	①統合園 ②図書館 ③子育て支援施設 ④商業施設	実績値	2	2	
		都市機能施設(統合園、図書館、子育て支援施設、商業施設等)の誘導件数		↗	目標達成率		100.0%	100.0%		
3	指標の説明	えちごトキめき鉄道市内4駅における1日あたりの平均乗車人員	人	1,654 (H30)	1,610 (R5)	利用者は減少が見込まれるが、落ち込みを抑制(27-30:△4.3%→3%に抑制)	実績値	1,271	1,303	人口減少や車社会によるもの。
		1日あたりの平均乗車人員(予測される減少を抑制)		↘	目標達成率		78.5%	80.9%		
4	指標の説明	市営バス・コミュニティバスの1日あたりの平均乗車人員	人	267 (H30)	261 (R5)	利用者は減少が見込まれるが、落ち込みを抑制(26-30:△6%→3%に抑制)	実績値	220	198	小学校が統合し専用スクールバスの運行となり、小学生の利用が減少したため。
		1日あたりの平均乗車人員(予測される減少を抑制)		↘	目標達成率		84.0%	75.9%		
5	指標の説明	スマートシティの推進によって生活の利便性が高まったと感じる市民の割合	%	— (H30)	60 (R5)	60%以上を目標とする	実績値	—	9.7	スマートシティに向けた整備をしているところであり、市民が実感するまでに時間が要するため。
		市民意識調査における回答の割合		↗	目標達成率		—	16.2%		
6	指標の説明	ICTが活用された住民サービス事業数	事業	— (H30)	8 (R5)	年間2事業の活用増を目指す	実績値	6	8	
		市が進める住民サービスでICTが活用された事業数		↗	目標達成率		100.0%	100.0%		
7	指標の説明	ICTの導入による業務削減時間数	時間	— (H30)	1,800 (R5)	2,000時間以上の削減を目指す	実績値	2,078	3,486	
		計画期間内に市役所でICTの導入により削減された業務時間数		↗	目標達成率		138.5%	193.7%		
8	指標の説明	市道整備率	%	57 (H30)	57.5 (R5)	(整備済延長: 401,800m+整備計画延長800m)÷市道実延長: 705,300m	実績値	57.3	57.5	
		市道延長に対し整備した市道の割合		↗	目標達成率		99.8%	100.0%		
9	指標の説明	橋梁修繕率	%	19.4 (H30)	26.3 (R5)	修繕計画橋梁数: 44橋÷修繕必要橋梁:160橋	実績値	21.9	22.5	
		修繕必要橋梁数に対し修繕した橋梁の割合		↗	目標達成率		87.6%	85.6%		
10	指標の説明	克雪対策に関する施策の満足度	%	39.1 (H30)	50 (R5)	満足度が「どちらとも言えない」と回答している市民層の満足度向上を目指す	実績値	—	48.2	
		市民意識調査における回答の割合		↗	目標達成率		—	96.4%		
11	指標の説明	新たな事業運営手法の導入事業数	事業	— (H30)	4 (R5)	ガス、水道、簡易水道、下水道の4事業における導入を目指す	実績値	4	4	
		官民連携手法等を導入した事業(ガス、水道、簡易水道、下水道)の数		↗	目標達成率		100.0%	100.0%		

3 施策を構成する主な事業					
No.	(事業通番)	関連する 指標No.	R5年度事務事業の事後評価		
	事業名		評価	評価理由	
1	(98972)	1	拡大	<ul style="list-style-type: none"> ●要綱制定後、H30～R4の5箇年間で、延べ34,211㎡94区画の宅地造成に結びつけ、市外への人口流出を防止するとともに、市外からの流入人口の増加を図ることができた。 ●居住誘導区域内で行う3,000㎡以上の宅地造成が可能な土地が限られてきていることから、制度のあり方について検討を行う必要がある。 	
	優良宅地造成支援事業			R5予算額(千円)	3,000
2	(92102)	4	維持	<ul style="list-style-type: none"> ●人口減少や車社会により利用者が減少する中でも市内の公共交通を維持し、市民の移動手段の確保を図った。AIデマンド乗合タクシー(チョイソコみょうこう)の本格運行に移行すると共に、街なか市街地の各町内に停留所を増設し、街なかエリアの住民の利便性向上を図った。 ●人口減少や車社会による公共交通機関の利用が減少している中で、費用対効果や利便性を考慮した新たな公共交通サービスの整備を進める必要がある。 	
	生活交通確保対策事業			R5予算額(千円)	137,910
3	(103616)	5～7	維持	<ul style="list-style-type: none"> ●DX施策の推進、セキュリティポリシーの改正委託による情報セキュリティ体制の維持を図るとともに、自治体情報システムの標準化、共通化に向け、導入システム仕様の確定、移行計画の策定を行った。オンライン申請システムを県内自治体とともに導入し、オンライン手続き受付を開始した。第2回となるドローン空撮動画の審査会を開催し普及啓発を行った。 ●オンライン申請システムなどを活用し行政のDX化を進めていく必要がある。標準化、共通化、ガバメントクラウドに対応したシステム構築を進めていく必要がある。無人航空機操縦資格取得支援補助金について、市内講習機関の開設に向け、継続して取り組む必要がある。 	
	スマート自治体推進事業			R5予算額(千円)	41,097
4	(130370)	8	維持	<ul style="list-style-type: none"> ●市道改良工事1路線について、早期発注・早期完了に努め、年度内に全ての工事を完了することができた。また、8路線の測量、用地買収等について、年度内に全て完了することができた。 ●冬期間や災害時の安全な交通を確保するため、今後も降雪期前の完了を目指し、早期発注・完了に努めるとともに、引き続き、国の交付金を活用するなど、財源確保に努める必要がある。 	
	道路新設改良事業 (繰越分を含む)			R5予算額(千円)	159,036
5	(130480)	9	維持	<ul style="list-style-type: none"> ●市道橋289橋の定期点検の結果を踏まえた橋梁長寿命化修繕計画を策定し、今後の橋梁の修繕計画の見直しを実施した。 ●国の交付金など財源確保を図りながら、計画的に維持修繕を進めるとともに、今後の維持管理を考慮し、通行量が少なく老朽化が著しい橋梁の集約化や撤去を検討する必要がある。 	
	橋梁長寿命化事業			R5予算額(千円)	168,011
6	(130190)	10	維持	<ul style="list-style-type: none"> ●除雪計画に基づき、地域と除雪受託業者、市が連携し、一体となって雪処理に取り組んだ結果、大雪時の影響も比較的少なく、冬期間の安全・安心な道路交通を確保することができた。 ●高齢化や核家族化などにより雪処理に対する地域力の低下や、市街地周辺での宅地造成等により雪押場や堆雪場の確保が難しくなるなど、年々、除雪条件が厳しいものとなっている。 	
	除雪対策事業			R5予算額(千円)	1,250,116
7	(30070)	3	-	(経常経費のため事後評価対象外)	
	企画費			R5予算額(千円)	34,747
8	(107884)	11	-	(経常経費のため事後評価対象外)	
	ガス事業清算費			R5予算額(千円)	-

4 施策評価		
区分	選択区分	評価理由
A:非常に効果があった B:十分効果があった C:効果があった D:あまり効果がなかった E:効果がなかった	B	<ul style="list-style-type: none"> ●居住誘導区域内に延べ94区画の宅地造成を誘導したことで、市外への人口流出の抑制と市外からの人口流入を促進し、区域内の人口密度の低下を緩やかにすることができた。 ●市営バス・コミュニティバス乗車人数は減少傾向にあるが、AIデマンド乗合タクシーの本格運行と街なか市街地の停留所を増設したことにより、街なかエリアの移動手段の充実と利便性の向上を図ることができた。 ●人口減少や車社会による公共交通機関の利用が減少している中で、費用対効果や利便性を考慮した新たな公共交通サービスの整備を進める必要がある。 ●県内自治体とともにオンライン申請システムを導入して、オンライン手続き受付を開始したことで住民の利便性の向上を図った。 ●地域、除雪受託業者、市が連携し、一体となって雪処理に取り組んだ結果、冬期間の安全・安心な道路交通を確保することができた。

5 今後の方向性		
区分	選択区分	今後の方向性
庁内評価委員会 I:事業拡大(追加・発展) II:改善(事業内容の見直し) III:継続(現状維持) IV:中止・廃止 V:予定通り事業終了	II	<ul style="list-style-type: none"> ●コンパクトなまちづくりを推進するため、居住誘導区域周辺での魅力的な宅地造成が進むよう、支援制度のあり方を検討すること。 ●鉄道を含めた地域公共交通のあり方を再整理し、持続可能な公共交通の再編を計画的に進めていくとともに、新技術開発の進展や費用対効果等を考慮しつつ、自動運転やライドシェアなどの新たなサービスの導入についても検討を行うこと。 ●AIデマンド乗合タクシーの実態を踏まえ、効率的な運行方法と適正な運賃に見直すこと。 ●市民がオンライン手続きの利便性を実感できるよう、積極的な周知やデジタル格差の解消を行うとともに、さらなる行政手続きのオンライン化を進めること。 ●雪処理に対する地域の負担軽減や安全確保のため、流雪溝クラウド監視制御システムなど、高齢化等に対応した対策を進めるとともに、冬期間の安全・安心な道路交通の確保のため、関係者間の連携強化を図ること。
審議会 I:事業拡大(追加・発展) II:改善(事業内容の見直し) III:継続(現状維持) IV:中止・廃止 V:予定通り事業終了	II	<ul style="list-style-type: none"> ●コンパクトなまちづくりを推進するため、居住誘導区域周辺での魅力的な宅地造成が進むよう、支援制度のあり方を検討すること。 ●鉄道を含めた地域公共交通のあり方を再整理し、持続可能な公共交通の再編を計画的に進めていくとともに、新技術開発の進展や費用対効果等を考慮しつつ、自動運転やライドシェアなどの新たなサービスの導入についても検討を行うこと。 ●AIデマンド乗合タクシーの実態を踏まえ、効率的な運行方法と適正な運賃に見直すこと。 ●市民がオンライン手続きの利便性を実感できるよう、積極的な周知やデジタル格差の解消を行うとともに、さらなる行政手続きのオンライン化を進めること。 ●雪処理に対する地域の負担軽減や安全確保のため、流雪溝クラウド監視制御システムなど、高齢化等に対応した対策を進めるとともに、冬期間の安全・安心な道路交通の確保のため、関係者間の連携強化を図ること。

令和5年度施策評価(第3次総合計画)

1 施策の概要	
まちづくりの大綱	1 快適で安全・安心に暮らせるまちづくり
基本施策	2 安全・安心な地域社会づくり【安全・安心】
関係課	総務課、地域共生課、環境生活課、農林課
主要施策	1 防災体制の確立 2 安全な市民生活の確保
	   
	R5予算額(千円) 81,856 R5決算額(千円) 67,172

※矢印は、目標値に対する方向性を示しています。

2 施策目標の達成状況		指標名	単位	現況値	目標値	目標値の根拠	区分	R4年度	R5年度	目標達成率が70%未満の要因等
1	指標の説明	自主防災組織の実践的防災訓練の実施率	%	76.2 (H30)	95 (R5)	全組織での訓練実施を目標とする	実績値	50.4	58.3	訓練実施方法等が継承されておらず、訓練実施率が低くなったため。
		自主防災組織において防災訓練を実施した割合		↗	目標達成率		56.0%	61.4%		
2	指標の説明	個人・家庭(自助)の防災力の向上	人	300 (H30)	1,800 (R5)	現況値から年300人増を目標とする	実績値	2,133	2,849	
		防災研修会等に参加した延べ人数		↗	目標達成率		142.2%	158.3%		
3	指標の説明	地域(共助)の防災力の向上	%	— (H30)	60 (R5)	現況値より災害対応力ポイントが向上した自主防災組織・自主防災組織(126団体)	実績値	37.6	40.9	前年と同じ内容の訓練を実施している自主防災組織が47団体あり、訓練内容の見直しがなされていないため。
		災害対応力診断チェック表による災害対応力が向上した組織の割合		↗	目標達成率		75.2%	68.1%		
4	指標の説明	消防団員の充足率	%	94.3 (H30)	98 (R5)	自警消防団の消防団への編入や特別消防団員を充足することで定員確保を目指す	実績値	97.2	86.7	
		定数に対する団員数の割合		↗	目標達成率		100.2%	88.5%		
5	指標の説明	安全な市民生活の確保に関する施策の満足度	%	40.3 (H30)	60 (R5)	H30アンケートで「どちらでもない」と回答した市民54%のうち20%を「満足」に押し上げる	実績値	—	53.9	
		市民意識調査における回答の割合		↗	目標達成率		—	89.8%		
6	指標の説明	刑法犯罪発生件数	件	152 (H30)	130 (R5)	前年比△5件を目指す	実績値	107	114	
		刑法犯罪の年間発生件数		↘	目標達成率		126.2%	114.0%		
7	指標の説明	交通事故発生件数	件	31 (H30)	18 (R5)	前年比△3件を目指す	実績値	19	23	
		人身事故の年間発生件数		↘	目標達成率		110.5%	78.3%		
8	指標の説明	管理不全な特定空き家等の解体・改修数	戸	4 (H30)	4 (R5)	現況値ベースの堅持を目標とする	実績値	10	6	
		解体・改修された特定空き家等の実数(年間)		→	目標達成率		250.0%	150.0%		
9	指標の説明	イノシシ、ニホンジカの捕獲数	頭	150 (H30)	230 (R5)	鳥獣被害防止計画においてR2に200頭の捕獲を目標としており、R3以降は10頭/年増を目標とする	実績値	120	116	市町村をまたいで移動することから生息状況の把握が難しいため。
		イノシシ、ニホンジカの年間捕獲数		↗	目標達成率		54.5%	50.4%		

3 施策を構成する主な事業					
No.	(事業通番)	関連する 指標No.	R5年度事務事業の事後評価		
	事業名		評価	評価理由	
1	(21070)	1~3	拡大	<p>●避難所を会場とした開設運営訓練を7回実施し、延べ425人の自主防災会の役員や住民が参加した。また、新型コロナウイルス感染症の影響で自粛していた自主防災組織による防災訓練についても、新型コロナウイルス感染症前の水準まで戻った。</p> <p>●災害時マイタイムラインの策定等の支援を行うほか、訓練実施の呼びかけやより実践的な訓練を実施していく必要がある。また、避難所を円滑に開設運営するためには、自主防災組織や市防災士会、施設管理者、市開設担当者の連携が不可欠であり、継続した訓練と顔の見える関係づくりを構築していく必要がある。</p>	
	R5予算額(千円)				
2	(21130)	4	維持	<p>●消防車両の配備、消火栓の新設・改良を行い消火体制の強化が図られた。視認性の高い消防団員用雨衣を整備することにより、雨天時の活動でも消防団員の安全性を確保することができた。</p> <p>●老朽化している資機材や消防器具置場の更新、団員の安全性を高めるための装備品の更新、迅速な消火活動を行うための消火栓等の消防水利の整備を計画的に実施していく必要がある。</p>	
	R5予算額(千円)				
3	(80020)	5,6	-	(経常経費のため事後評価対象外)	
	R5予算額(千円)			3,462	R5決算額(千円)
4	(90030)	7	-	(経常経費のため事後評価対象外)	
	R5予算額(千円)			3,019	R5決算額(千円)
5	(90802)	8	-	(経常経費のため事後評価対象外)	
	R5予算額(千円)			2,663	R5決算額(千円)
6	(90440)	9	維持	<p>●国交付金を活用し、くくりわなやわなセンサーなどの新しい猟具や技術を導入したことにより、効果的な有害鳥獣捕獲に繋がった。</p> <p>●地域と市(専門員、実施隊)の更なる協力・連携を図るため、地区からの情報提供に基づく被害状況の把握や現地確認、迅速な捕獲活動を実施する必要がある。また、捕獲体制の強化や捕獲技術の向上が必要である。</p>	
	R5予算額(千円)				

4 施策評価		
区分	選択区分	評価理由
A:非常に効果があった B:十分効果があった C:効果があった D:あまり効果がなかった E:効果がなかった	C	<ul style="list-style-type: none"> ●災害を想定したより実践的な訓練として避難所を会場とした開設運営訓練を実施し、避難、開設、運営の手順を確認し緊急事態へ備えることができた。 ●消防車両の配備や消火柱の新設・改良、団員の安全を守る装備品の整備など消火体制の強化や消防団員の安全性を確保することで、消火活動体制の充実を図った。 ●地域と市(専門員、実施隊)の連携のもと、新しい猟具や技術を導入したことで、効果的な有害鳥獣捕獲につながった。

5 今後の方向性		
区分	選択区分	今後の方向性
庁内評価委員会 I:事業拡大(追加・発展) II:改善(事業内容の見直し) III:継続(現状維持) IV:中止・廃止 V:予定通り事業終了	III	<ul style="list-style-type: none"> ●避難所の円滑な開設運営のために自主防災組織や市防災士会、施設管理者、市開設担当者が顔の見える関係を構築するとともに、実践的な訓練を継続し、地域防災力を高めること。 ●能登半島地震で見えてきた課題を踏まえ、指定避難所の環境整備など災害への備えに対応していくこと。 ●避難行動要支援者の個別避難計画の作成が進むよう自主防災組織を支援していくこと。 ●専門員や実施隊員の確保による捕獲体制の強化や捕獲技術の向上を図るとともに、迅速な捕獲活動の実施のため地域と市(専門員、実施隊)の更なる連携強化を図ること。
審議会 I:事業拡大(追加・発展) II:改善(事業内容の見直し) III:継続(現状維持) IV:中止・廃止 V:予定通り事業終了	II	<ul style="list-style-type: none"> ●避難所の円滑な開設運営のために自主防災組織や市防災士会、施設管理者、市開設担当者が顔の見える関係を構築するとともに、実践的な訓練を継続し、地域防災力を高めること。 ●能登半島地震で見えてきた課題を踏まえ、指定避難所の環境整備など災害への備えに対応していくこと。 ●避難行動要支援者の個別避難計画の作成が進むよう自主防災組織を支援していくこと。 ●専門員や実施隊員の確保による捕獲体制の強化や捕獲技術の向上を図るとともに、迅速な捕獲活動の実施のため地域と市(専門員、実施隊)の更なる連携強化を図ること。 ●新型コロナウイルス感染症により途切れた訓練のノウハウを想起させるとともに、再び訓練が実施できるよう支援すること。

令和5年度施策評価(第3次総合計画)

1 施策の概要	
まちづくりの大綱	2 美しい自然と共に生きるまちづくり
基本施策	1 豊かな生活環境づくり【環境保全】
関係課	環境生活課
主要施策	1 自然環境の保全と活用 2 地球温暖化対策の推進 3 資源循環のまちづくりの推進



R5予算額(千円) 221,025 R5決算額(千円) 189,977

※矢印は、目標値に対する方向性を示しています。
※指標7、8は目標達成率がマイナスとなるため、0%と表記しています。





2 施策目標の達成状況		指標名	単位	現況値	目標値	目標値の根拠	区分	R4年度	R5年度	目標達成率が70%未満の要因等
1	ライチョウの確認数	羽	12 (H30)	20 (R5)	過去最大の確認数に増加させることを目標とする	実績値	27	27		
	指標の説明		頸城山麓に生息するライチョウの確認数	↑						目標達成率
2	国立公園妙高利用者数	千人	1,660 (H30)	1,725 (R5)	現況値から5%増加を目標とする	実績値	1,276	1,551		
	指標の説明		自然公園等利用者調べによる妙高市域の利用者数	↑						目標達成率
3	環境サポーター登録者数	人	67 (H30)	147 (R5)	20人/年の増加を目標とする	実績値	329	361		
	指標の説明		環境会議で募集している環境ボランティア登録者数	↑						目標達成率
4	入域料協力金額	千円	1,460 (H30)	4,450 (R5)	毎年約1%増を目標とする	実績値	4,125	4,855		
	指標の説明		入域料に協力いただいた金額	↑						目標達成率
5	妙高市温室効果ガス排出量	千t	313 (H30)	286 (R5)	第2次妙高市地球温暖化対策地域推進計画により、約6千t/年削減を目標とする	実績値	246	299	算定方法が変更となったため。(従前の算定方法では前年度並み)	
	指標の説明		妙高市の温室効果ガスの約98%を占める二酸化炭素の量(当該年度に把握できる数値)※3年前年度の実績	↓						目標達成率
6	公共施設における再生可能エネルギー導入件数	施設	8 (H30)	11 (R5)	4件増を目標とする	実績値	28	29		
	指標の説明		市内公共施設における導入件数	↑						目標達成率
7	ごみ排出総量	t/年	14,761 (H30)	13,170 (R5)	(家庭系排出予測値×人口予測値×年間日数)+(事業系排出予測値×年間日数)	実績値	14,552	13,205	コロナ禍を経て人の流れが戻ったことによる事業系廃棄物の排出が増加したため	
	指標の説明		市内から発生する廃棄物の総量	↓						目標達成率
8	家庭系可燃ごみ1人1日あたり排出量	g	467 (H30)	418 (R5)	H26年度比40g減量を目標とする	実績値	489	445	生ごみの減量がすすまないため。	
	指標の説明		家庭から発生した燃えるごみの1人1日あたり排出量	↓						目標達成率
9	事業系可燃ごみ1日あたり排出量	kg	11,893 (H30)	11,100 (R5)	H26年度比0.4t減量を目標とする	実績値	10,715	10,265		
	指標の説明		事業所から発生した燃えるごみの1日あたり排出量	↓						目標達成率
10	資源化率	%	30.7 (H30)	31.6 (R5)	R7年度32.0%を目標とする	実績値	32.7	32.7		
	指標の説明		一般廃棄物の総量の内資源化された量の割合	↑						目標達成率

3 施策を構成する主な事業						
No.	(事業通番)	関連する 指標No.	R5年度事務事業の事後評価			
	事業名		評価	評価理由		
1	(97574)	1~4	維持	<ul style="list-style-type: none"> ●環境サポーターズの登録者数の増加や、クラウドファンディングの寄附金額や入域料の収受額の確保、ライチョウ生育地保護事業や外来植物の駆除をはじめとする生物多様性の保全などについて計画どおり実施できた。 ●自然環境保全への関心や意識を高めるため、入域料などの寄付者に対して報告(周知)を行うほか、サポーターズ活動の充実を図る必要である。 		
	生命地域妙高環境会議事業					
2	(97248)	5	拡大	<ul style="list-style-type: none"> ●脱炭素の意識付けやゼロカーボンの推進を図るため、補助制度を創設した。また、市内全小学生を対象に森林学習など環境学習の場を提供し、自然環境保護に向けた意識啓発を図ることができた。 ●市民や事業者への周知方法の多様化など実践につながる工夫や補助金を活用した増加対策が必要である。また、環境学習について、小学校低学年から大人まで幅広く活用できるよう提供メニューの充実を図る必要がある。 		
	2050ゼロカーボン推進事業					
3	(90510)	7~10	拡大	<ul style="list-style-type: none"> ●ごみの減量と資源化を促進するために、一般廃棄物処理手数料の改定を行い、令和5年からの指定ごみ袋の変更、可燃ごみの収集回数統一を行った。 ●ごみ減量と資源化の促進のため、可燃ごみ一人1日当たりの排出量の削減と資源化率の拡大を図る必要がある。 		
	ごみ減量・リサイクル推進事業					
4	(100537)	1~10	拡大	<ul style="list-style-type: none"> ●地域・事業所・学校などでの出前講座等を開催したほか、未来都市妙高フェスタ、各種イベント、出前講座、ウェビナー等を通じて、市民への普及啓発と行動変容につなげることができた。また、SDGs未来都市として、芝浦工業大学との連携協定の締結につなげることができた。 ●SDGsに対する基本的な考え方の周知浸透のほか、ごみ減量・リサイクル等の推進につながる啓発等により、市民の意識変革につながっているところであるが、さらなる市民への浸透と行動変容を促す取組を進めていく必要がある。 		
	総合計画・SDGs推進事業					
5	(106074)	1~4	-	(経常経費のため事後評価対象外)		
	妙高高原ビジターセンター管理運営事業					

4 施策評価		
区分	選択区分	評価理由
A:非常に効果があった B:十分効果があった C:効果があった D:あまり効果がなかった E:効果がなかった	C	<ul style="list-style-type: none"> ●環境サポーターズ登録者数の増加及び入域料やクラウドファンディングによる環境保全活動資金の確保により、多様な関係者による生物多様性保全活動が計画的に進んでいる。 ●脱炭素の意識付けやゼロカーボンの推進を図るため、新たな補助制度を創設することで、再エネの促進に努めた。 ●一般廃棄物処理手数料の改定や可燃ごみ収集回数統一などを行ったが、可燃ごみ一人1日当たり排出量の目標に達していないため、ごみ減量と資源化の取り組み強化が必要である。 ●SDGsに対する基本的な考え方の周知浸透を図るため、未来都市妙高フェスタや出前講座、ウェビナー等を実施した。

5 今後の方向性		
区分	選択区分	今後の方向性
庁内評価委員会 I:事業拡大(追加・発展) II:改善(事業内容の見直し) III:継続(現状維持) IV:中止・廃止 V:予定通り事業終了	I	<ul style="list-style-type: none"> ●国立公園の保全と活用に向け、人材育成や財源確保に努めるとともに、入域料などの寄付者に対して取組を発信し、関係性の維持・拡大を図ること。 ●脱炭素型地域の実現に向け、市民や事業者へ脱炭素の具体的な取組方法やその効果、支援策を効果的に周知し、市民の主体的な行動を促すと同時に、「ゼロカーボンチャレンジ事業所」の増加に繋げていくこと。 ●ごみ減量と資源化の促進のため、HPやSNS、地域説明会など市民の意識・行動変容の普及啓発を強化すること。 ●市民、事業所、市の連携・協働によるSDGsの推進と実践の輪の拡大を図っていくため、引き続き普及啓発に努めること。
審議会 I:事業拡大(追加・発展) II:改善(事業内容の見直し) III:継続(現状維持) IV:中止・廃止 V:予定通り事業終了	I	<ul style="list-style-type: none"> ●国立公園の保全と活用に向け、人材育成や財源確保に努めるとともに、入域料などの寄付者に対して取組を発信し、関係性の維持・拡大を図ること。 ●脱炭素型地域の実現に向け、市民や事業者へ脱炭素の具体的な取組方法やその効果、支援策を効果的に周知し、市民の主体的な行動を促すと同時に、「ゼロカーボンチャレンジ事業所」の増加に繋げていくこと。 ●ごみ減量と資源化の促進のため、HPやSNS、地域説明会など市民の意識・行動変容の普及啓発を強化すること。 ●市民、事業所、市の連携・協働によるSDGsの推進と実践の輪の拡大を図っていくため、引き続き普及啓発に努めること。

令和5年度施策評価(第3次総合計画)

1 施策の概要			
まちづくりの大綱	3	にぎわいと交流を生みだすまちづくり	
基本施策	1	世界に誇れる観光地域づくり【交流促進】	
関係課	観光商工課		
主要施策	1 観光地域づくりの実践 2 国際観光都市としての基盤整備		
	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>8 働きがいも経済成長も</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>9 産業と技術革新の基盤をつくろう</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>11 住み続けられるまちづくりを</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>17 パートナシップで目標を達成しよう</p> </div> </div>		
R5予算額(千円)		327,673	R5決算額(千円) 207,169

※矢印は、目標値に対する方向性を示しています。

2 施策目標の達成状況									
指標名		単位	現況値	目標値	目標値の根拠	区分	R4年度	R5年度	目標達成率が70%未満の要因等
1	観光売上額	百万円	11,643 (H30)	13,607 (R5)	現況値から20%増を目標とする	実績値	18,038	17,310	
	指標の説明 年間観光消費額		↗			目標達成率	136.5%	127.2%	
2	観光入込客数	万人	578 (H30)	596 (R5)	現況値から4%の増を目標とする	実績値	463	511	
	指標の説明 年間観光入込客数		↗			目標達成率	78.2%	85.7%	
3	観光コーディネーター数	人	1 (H30)	3 (R5)	総合、マーケティング、旅行商品のそれぞれのコーディネーター数を目標とする	実績値	2	2	新型コロナウイルス感染症の影響により、人員の確保が難しかったため
	指標の説明 観光コーディネーター数		↗			目標達成率	66.7%	66.7%	
4	域内循環額	百万円	1,979 (H30)	2,800 (R5)	現況値から50%の増を目標とする	実績値	3,066	2,943	
	指標の説明 観光産業による域内循環額		↗			目標達成率	117.9%	105.1%	
5	外国人観光宿泊客数	人	59,721 (H30)	70,000 (R5)	現況値から20%の増を目標とする	実績値	2,695	125,682	
	指標の説明 外国人観光客の年間延べ宿泊数		↗			目標達成率	4.0%	179.5%	
6	二次交通路線数	路線	10 (H30)	13 (R5)	新たに3路線の運行を目標とする	実績値	8	8	コロナ禍による乗車人数の減少により路線数が回復していないもの
	指標の説明 妙高への来訪や市内を周遊する二次交通路線数		↗			目標達成率	61.5%	61.5%	
7	主要な観光施設の利用者数	人	165,130 (H30)	191,000 (R5)	現況値から20%の増を目標とする	実績値	188,623	331,076	
	指標の説明 国立公園施設年間施設利用者数(苗名滝、高谷池ヒュッテ、妙高高原ビジターセンター)		↗			目標達成率	102.0%	173.3%	
8	観光施設整備数	箇所	— (H30)	5 (R5)	5箇所増を目標とする	実績値	4	4	
	指標の説明 計画期間内に整備した施設の数		↗			目標達成率	100.0%	80.0%	


3 施策を構成する主な事業				
No.	(事業通番)	関連する 指標No.	R5年度事務事業の事後評価	
	事業名		評価	評価理由
1	(100584)	1~5	維持	<ul style="list-style-type: none"> ●物価高騰や新型コロナウイルス感染症拡大により、落ち込んだ観光需要の回復の動きを確実に取り込むため、市内での宿泊や買い物などで利用できる地域クーポン券を発行する観光誘客キャンペーン事業を実施し、地域経済の活性化を図ることができた。 ●妙高ツーリズムマネジメントの組織体制強化や観光客のニーズを捉えたサービスの企画開発、マーケティングデータに基づいた誘客促進、妙高ならではの魅力発信など、地域で稼ぐ仕組みを作る活動が必要である。
	観光地域づくり団体支援事業			R5予算額(千円) 31,173 R5決算額(千円) 28,577
2	(180330)	7, 8	維持	<ul style="list-style-type: none"> ●高谷池ヒュッテのトイレや手洗いなどに雨水を活用する工事が完了したことから、水源の維持や保護をはじめ、水不足を一部補完することができた。 ●高谷池の水源の維持や保護に努めていく必要がある。また、いもり池修繕工事においては、観光客が集中する時期などを考慮した工事を実施していく必要がある。
	観光施設整備事業 (繰越分を含む)			R5予算額(千円) 24,760 R5決算額(千円) 8,922
3	(100587)	1,2,5,6	維持	<ul style="list-style-type: none"> ●市内スキー場にICゲートシステムを導入し、MYOKOスノーリゾートの形成に向け基盤を整備した。また、クアオルト健康ウォーキングを実施するクアの道として、市内2か所のコースを認定し、案内看板やコースマップを整備するとともに、専門ガイド4名を育成することができた。 ●MYOKOスノーリゾートの誘客促進やクアオルトウォーキングの普及と関係・交流人口の拡大を図る必要がある。
	観光誘客推進事業			R5予算額(千円) 271,740 R5決算額(千円) 169,669

4 施策評価		
区分	選択区分	評価理由
A:非常に効果があった B:十分効果があった C:効果があった D:あまり効果がなかった E:効果がなかった	C	<ul style="list-style-type: none"> ●市内で利用できる地域クーポン券の発行や観光DXを推進することで、地域経済の活性化を図ることができた。 ●高谷池ヒュッテのトイレや手洗いなどに雨水を活用する工事が完了したことから、水源の維持や保護をはじめ、施設利用者の利便性向上が図られた。 ●インバウンド需要や健康意識の高い企業を確実に取り込むため、MYOKOスノーリゾートの形成に向けた市内スキー場にICゲートシステムを導入やクアオルト健康ウォーキングを実施するクアの道を市内2か所認定を受けるなどの整備を進めることが出来た。 ●観光需要の回復やインバウンド効果の高まりにより観光売上額等が増加している。


5 今後の方向性		
区分	選択区分	今後の方向性
庁内評価委員会 I:事業拡大(追加・発展) II:改善(事業内容の見直し) III:継続(現状維持) IV:中止・廃止 V:予定通り事業終了	II	<ul style="list-style-type: none"> ●妙高ツーリズムマネジメントの組織体制強化のため、観光戦略の企画立案など、実際に事業を推進できる人材の確保や育成を図るとともに、専門知識を持って組織をマネジメントできる人材を確保し、多様な関係者が連携して地域で稼ぐ仕組みを早急につくること。 ●いもり池遊歩道修繕工事は、観光客が安心・安全に利用できるよう、観光客が集中する時期などを考慮した工事を実施すること。 ●MYOKOスノーリゾートとしてエリア全体の顧客情報を取得・活用し、市内スキー場共通リフト券を造成することによる利便性の向上、域内周遊を図るとともに、スキー場間等を移動する二次交通の環境を整備すること。
審議会 I:事業拡大(追加・発展) II:改善(事業内容の見直し) III:継続(現状維持) IV:中止・廃止 V:予定通り事業終了	I	<ul style="list-style-type: none"> ●妙高ツーリズムマネジメントの組織体制強化のため、観光戦略の企画立案など、実際に事業を推進できる人材の確保や育成を図るとともに、専門知識を持って組織をマネジメントできる人材を確保し、多様な関係者が連携して地域で稼ぐ仕組みを早急につくること。 ●いもり池遊歩道修繕工事は、観光客が安心・安全に利用できるよう、観光客が集中する時期などを考慮した工事を実施すること。 ●MYOKOスノーリゾートとしてエリア全体の顧客情報を取得・活用し、市内スキー場共通リフト券を造成することによる利便性の向上、域内周遊を図るとともに、スキー場間等を移動する二次交通の環境を整備すること。 ●大規模リゾート開発を見据え、受入体制の整備や二次交通の充実など、戦略的に取組を進めること。

令和5年度施策評価(第3次総合計画)


1 施策の概要	
まちづくりの大綱	3 にぎわいと交流を生みだすまちづくり
基本施策	2 活力ある地域経済づくり【産業振興】
関係課	観光商工課、農林課、企画政策課
主要施策	1 商工業の振興と中心市街地の賑わいの創出 2 安定して働きやすい雇用の創出 3 持続可能な農業の振興




2 エネルギーをゼロに




4 質の高い教育をみんなに




5 ジェンダー平等を実現しよう




8 働きがいも経済成長も




9 産業と技術革新の基盤をつくろう



10 人や国の不平等をなくそう



11 住み続けられるまちづくりを



17 パートナリシップで目標を達成しよう

R5予算額(千円)	361,812	R5決算額(千円)	269,883
-----------	---------	-----------	---------

※矢印は、目標値に対する方向性を示しています。

2 施策目標の達成状況									
指標名		単位	現況値	目標値	目標値の根拠	区分	R4年度	R5年度	目標達成率が70%未満の要因等
1	市内事業所数	事業所	957 (H30)	873 (R5)	予測される減少の抑制を目標とする(Δ12%→Δ10%)	実績値	960	958	
	指標の説明		市内の事業所数(予想される減少を抑制)	↘		目標達成率	108.2%	109.7%	
2	企業の立地・業務拡張等数	件	42 (H30)	62 (R5)	年間5件の増を目標とする	実績値	47	48	
	指標の説明		企業振興奨励条例等に基づく固定資産税免除・賃借料補助金指定件数(平成27年度からの累計)	↗		目標達成率	82.5%	77.4%	
3	賑わいづくりのイベント・朝市入込数	人	169,459 (H30)	176,400 (R5)	毎年約1%(1,600人)の増を目標とする	実績値	130,200	157,300	
	指標の説明		商工会議所・各商工会等が主体となるイベントと朝市の入込数	↗		目標達成率	74.5%	89.2%	
4	企業の雇用創出数	人	75 (H30)	100 (R5)	年間6人の増を目標とする	実績値	147	147	
	指標の説明		企業振興奨励条例等における新規雇用創出数(平成27年度からの累計)	↗		目標達成率	156.4%	147.0%	
5	地元就職率	%	73.9 (H30)	80 (R5)	80%以上を目標とする	実績値	83.8	78.8	
	指標の説明		就職した高校生のうち妙高市、上越市の事業所に就職した割合	↗		目標達成率	104.8%	98.5%	
6	市内での新規起業数	件	25 (H30)	37 (R5)	年間3件の増を目標とする	実績値	45	47	
	指標の説明		市の補助制度を活用し、新たに起業した事業所数(平成27年度からの累計)	↗		目標達成率	132.4%	127.0%	
7	雇用・労働環境の充実の満足度	%	5.4 (H30)	18.2 (R5)	市民意識調査の満足度の平均値以上を目標とする	実績値	-	9.6	魅力のある働き場が少ないため
	指標の説明		市民意識調査における回答の割合	↗		目標達成率	-	52.7%	
8	コーディネート組織を通じた市内企業と都市部のビジネスマッチング件数	件	0 (H30)	18 (R5)	計画期間内に20件を目標とする	実績値	12	13	
	指標の説明		コーディネート組織を通じたビジネスマッチングの件数	↗		目標達成率	80.0%	72.2%	
9	主食用米の作付面積	ha	1,591 (H30)	1,570 (R5)	R2年以降は全国的な需要の減少を勘案して、面積増加の抑制(維持)を目標とする	実績値	1,527	1,526	
	指標の説明		水田フル活用ビジョンにおける主食用米の作付面積	↘		目標達成率	304.8%	309.5%	
10	経営耕地面積が20ha以上の法人の割合	%	52.9 (H30)	58 (R5)	法人の新設、統合等により20ha以上の法人数を9、全数を15と想定し目標値を設定し、経過値は規模拡大傾向を表すものとする	実績値	62.5	62.5	
	指標の説明		農地所有適格法人に占める経営耕地面積が20ha以上の法人の割合	↗		目標達成率	111.6%	107.8%	

3 施策を構成する主な事業					
No.	(事業通番)	関連する 指標No.	R5年度事務事業の事後評価		
	事業名		評価	評価理由	
1	(94195)	1,3	拡大	<ul style="list-style-type: none"> ●事業所の規模や業種、成長段階にあわせた「がんばる企業応援補助金」等により、販路開拓や海外需要の取り込みなど中小企業の新たな取組を支援した。 ●地域経済の活性化に向け、商工業者の経営基盤の強化や魅力向上支援のほか、地域内消費の促進・喚起につながる取組を継続が必要である。 	
	地域経済活性化支援事業 (繰越分を含む)				
2	(120935)	2,4,6	拡大	<ul style="list-style-type: none"> ●企業振興奨励条例に基づく課税免除17件、中小企業向けの支援策である夢をかなえる企業応援補助金22件の利用があり、新規創業と空き店舗の有効活用等に繋がった。 ●企業誘致や既存企業の業務拡張を促進するために必要な優遇措置を講じ、産業振興や雇用機会の拡充を図る必要がある。 	
	企業立地促進事業				
3	(120240)	5,7	拡大	<ul style="list-style-type: none"> ●地域人材育成支援助成金の拡充により、限度額引き上げ対象資格の取得が図られ、事業所からの申請も一定数あった。新井高校との連携により、例年のジョブ・ウォッチングに加えて、地元企業による生徒向け講演会も実施することができた。 ●進学後のU・Iターンに結び付ける働きかけや市内における労働力不足を解消するため支援策の検討が必要。 	
	就労支援事業				
4	(102545)	8	維持	<ul style="list-style-type: none"> ●企業とのつながりができたことで継続的な取り組みの機会となったことや企業向けのニーズや課題の把握ができたことで、より企業が求めるプログラムにブラッシュアップするきっかけとなった。補助金を活用した民間事業者が、首都圏企業2社のサテライトオフィスをロッテアライリゾート内に誘致した。 ●地域と参加者(外部人材)のつながりを深めるまでには至っておらず、継続的な来訪による関係人口化には至っていない。テレワークは普及したものの、企業側のワーケーションに対する課題(労務管理、経費計上等)を克服する必要がある。 	
	関係人口創出・拡大事業				
5	(110030)	9	維持	<ul style="list-style-type: none"> ●全国的に米の消費量が減少する中、妙高市農業再生協議会を主体として、需要に応じた米生産に向けた取組を進めた結果、令和5年産の主食用米作付面積は、前年から1ha減少し1,526haとなった。 ●水田活用の交付金の減少が見込まれることから、従来の非主食用米に加え、生産物収入が見込める園芸作物等への転換を農業者が検討できるよう、引き続き米の需給情報や交付金等について、情報提供が必要がある。 	
	水田農業経営安定対策事業				
6	(110050)	10	維持	<ul style="list-style-type: none"> ●農業次世代人材投資事業の経営開始資金により、新規就農者へ資金面の支援を実施した。また、新たに農業を始める2名の青年等就農計画を認定した。 ●高齢により担い手が減少傾向にあることから、新たな担い手の確保に努める必要がある。 	
	担い手確保支援事業				
7	(91581)	-	維持	<ul style="list-style-type: none"> ●加工用ブドウの栽培について、約5.6tの収量を確保でき、出荷したブドウを活用し2,400本のワインを醸造することができた。 ●加工用ブドウの品質向上と収量確保のため、栽培技術の向上が必要である。 	
	六次産業化推進事業				

4 施策評価		
区分	選択区分	評価理由
A:非常に効果があった B:十分効果があった C:効果があった D:あまり効果がなかった E:効果がなかった	C	<ul style="list-style-type: none"> ●中小企業の新しい取組や新規創業など事業所の規模や業種、成長段階に合わせた支援をしたことにより、市内事業所数が目標値より高い件数となっており、一定の成果を上げている。 ●例年のジョブ・ウォッチングに加えて、地元企業による生徒向け講演会も実施することで、高校卒業後、就職を選択する生徒が減少していく中でも地元への就職を考えるきっかけを提供できた。 ●ワーケーションプログラムの効果検証を継続的に実施してきたことで企業が求めるプログに近づいたことや首都圏企業が2社サテライトオフィスを誘致したことで、関係人口創出・拡大の一定の成果が得られた。 ●非主食用米への作付転換を行う取組を支援をしたことで、主食用米作付面積を前年から1ha減らし、1,526haになった。 ●約5.6の加工用ブドウの収量を確保し、出荷したブドウを活用して2,400本のワインを醸造することができた、今後も収穫量が増加する見込みであることから、地域のこし協力隊を1名雇用し、持続可能な体制づくりを行った。

5 今後の方向性		
区分	選択区分	今後の方向性
市内評価委員会 I:事業拡大(追加・発展) II:改善(事業内容の見直し) III:継続(現状維持) IV:中止・廃止 V:予定通り事業終了	I	<ul style="list-style-type: none"> ●商工業者の経営基盤の強化や企業誘致など魅力向上支援のほか、必要な優遇措置を講じることで地域産業の振興や雇用機会の拡充を図ること。 ●短時間勤務等業務の掘り起こしや新たに構築する求人・求職ポータルサイトの紹介を行うなど、労働力確保に向けた市内事業所への支援をすること。 ●首都圏の官民共創施設を活用して、外部人材とつながりを深める機会を増やし、継続的な関係人口化を図ること。 ●水田活用の交付金の減少が見込まれることから、従来の非主食用米に加え、生産物収入が見込める園芸作物等への転換を検討できるよう、米の需給情報や交付金など、農業者が経営判断できる情報提供に努めること。 ●加工用ブドウの品質向上と収量確保のため、引き続き栽培技術の向上と生産拡大を図ること。また、ワイナリー整備に向け、醸造家の確保や整備箇所の選定等の準備を進めること。
審議会 I:事業拡大(追加・発展) II:改善(事業内容の見直し) III:継続(現状維持) IV:中止・廃止 V:予定通り事業終了	I	<ul style="list-style-type: none"> ●商工業者の経営基盤の強化や企業誘致など魅力向上支援のほか、必要な優遇措置を講じることで地域産業の振興や雇用機会の拡充を図ること。 ●短時間勤務等業務の掘り起こしや新たに構築する求人・求職ポータルサイトの紹介を行うなど、労働力確保に向けた市内事業所への支援をすること。 ●首都圏の官民共創施設を活用して、外部人材とつながりを深める機会を増やし、継続的な関係人口化を図ること。 ●水田活用の交付金の減少が見込まれることから、従来の非主食用米に加え、生産物収入が見込める園芸作物等への転換を検討できるよう、米の需給情報や交付金など、農業者が経営判断できる情報提供に努めること。 ●加工用ブドウの品質向上と収量確保のため、引き続き栽培技術の向上と生産拡大を図ること。また、ワイナリー整備に向け、醸造家の確保や整備箇所の選定等の準備を進めること。 ●耕作放棄地の発生抑制に向け、農地集積・集約化や新たな担い手の確保を進めること。

令和5年度施策評価(第3次総合計画)

1 施策の概要			
まちづくりの大綱	4	全ての人が元気に活躍できるまちづくり	
基本施策	1	市民主体の健康づくり【健康・医療】	
関係課	健康保険課		
主要施策	1 健康づくりの推進 2 地域医療体制の確保		



R5予算額(千円)	377,194	R5決算額(千円)	352,508
-----------	---------	-----------	---------

※矢印は、目標値に対する方向性を示しています。
※指標3は目標達成率がマイナスとなるため、0%と表記しています。



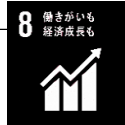

2 施策目標の達成状況									
指標名		単位	現況値	目標値	目標値の根拠	区分	R4年度	R5年度	目標達成率が70%未満の要因等
1	健康寿命と平均寿命の差	歳	男性1.8歳 女性3.7歳	男性1.8歳 女性3.7歳	現況値よりも差を減少させる	実績値	男性1.0歳 女性3.4歳	男性1.5歳 女性3.1歳	【参考】 ○男性(A)79.3歳 (B)81.1歳 ○女性(A)84.1歳 (B)87.8歳
	指標の説明		市民の健康寿命(A)と平均寿命(B)の差			→	目標達成率	100.0%	
2	生活習慣病予防のための運動習慣の定着率(65歳以上の男性)	%	43.3	55	年平均3%増を目指す	実績値	44.9	44	
	指標の説明		国保特定健診及び市民健診を受診した65歳以上の男性のうち、1日30分以上の運動を週2回以上実施し1年以上持続している人の割合			↗	目標達成率	86.3%	
3	肥満者の割合(20~69歳の男性)	%	31	31	現況値よりも差を減少させる	実績値	31.7	29.6	
	指標の説明		国保特定健診及び市民健診を受診した20~69歳の男性のうちBMI25以上の者の割合			→	目標達成率	97.8%	
4	特定健診受診率	%	58.3	60	国の市町村国保の目標値に準ずる	実績値	56.3	57.4	
	指標の説明		国保加入者のうち特定健診を受診した者の割合			↗	目標達成率	93.8%	
5	特定保健指導実施率	%	61.4	65	H29年度以前に国の目標値である60%を達成している実績があることから、年1ポイント程度の伸びを目標とする	実績値	50.8	56.0	
	指標の説明		特定保健指導該当者のうち保健指導終了者の割合			↗	目標達成率	79.4%	
6	市内病院数	病院	2	2	現状を維持することを目標とする	実績値	2	2	
	指標の説明		市内における病院数(けいなん総合病院、県立妙高病院)			→	目標達成率	100.0%	
7	市内病院の常勤医師数	人	15	16	過去5年間の増減数をもとに目標値を設定	実績値	12	12	
	指標の説明		安定した診療体制維持のためのけいなん総合病院及び県立妙高病院における常勤医師数(研修医除く)			↗	目標達成率	75.0%	
8	市内病院の診療科目数	科目	13	13	現況値以上を目標とする	実績値	14	16	
	指標の説明		けいなん総合病院・県立妙高病院で開設されている外来診療科目とリハビリテーション科の合計			→	目標達成率	107.7%	
9	救急医療を担う病院の数(第二次救急医療体制)	病院	7	7	医師の負担増大を防ぎ、安定して体制継続させるため現状維持を目標とする	実績値	7	7	
	指標の説明		妙高市・上越市において救急医療を輪番制で担う病院の数			→	目標達成率	100.0%	

3 施策を構成する主な事業				
No.	(事業通番)	関連する 指標No.	R5年度事務事業の事後評価	
	事業名		評価	評価理由
1	(91415)	1,2,3	維持	<ul style="list-style-type: none"> ●食生活改善推進委員の育成を計画通り実施し、会員自身が必要な知識を習得することができた。また、新型コロナウイルス感染症が5類へ移行したことに伴い、地域活動を拡大することができた。 ●健康づくり推進協議会等で意見を聴取し、健康課題改善に向けた次期プランを策定することができた。 ●ウォーキングの推進に向け、ICTを活用したイベントを企画し情報発信を行ったが、参加者は非常に少ない状況であり、重点とする対象者と施策の内容、働きかける方法等について検討する必要がある。
				R5予算額(千円) 6,045
2	(71850)	4,5	維持	<ul style="list-style-type: none"> ●死亡率の高い大腸がんの受診勧奨の取組により受診率が向上し、コロナ禍前を上回った。また、継続した保健指導により、Ⅱ度高血圧以上の割合はH30年度5.4%からR4年度3.0%と減少傾向にある。 ●マンパワー不足により、人間ドック受診者及び診療情報提供者への保健指導が十分に行えない状況となっている。それにより、介護保険の2号被保険者や人工透析導入者が発生していることから、保健指導の優先順位を見直し、重症化予防を徹底する必要がある。
				R5予算額(千円) 71,267
3	(71770)	6,7,8,9	維持	<ul style="list-style-type: none"> ●労災病院閉院に伴う周辺病院への機能移行の議論について具体的な方向性が決定した。県立妙高病院における冬季休日整形外科外来の開設に向け、市が冬季の観光振興を含む地域医療の確保策として運営支援の体制を整えた。 ●妙高病院の医療提供体制の適正な維持に向けて、要望活動を展開していく必要がある。また、救急告示病院に運営支援を行うことで安定的な救急医療体制を確保しているが、R7年度中の労災病院閉院に伴う対応が必要となる。
				R5予算額(千円) 202,703
4	(71730)	—	—	(経常経費のため事後評価対象外)
	歯科保健対策事業			R5予算額(千円) 2,528
5	(71930)	—	—	(経常経費のため事後評価対象外)
	感染症予防対策事業			R5予算額(千円) 94,651

4 施策評価		
区分	選択区分	評価理由
A:非常に効果があった B:十分効果があった C:効果があった D:あまり効果がなかった E:効果がなかった	C	<ul style="list-style-type: none"> ●地域の人材不足を踏まえ、食生活改善推進委員の育成や、健康づくりリーダーの実態把握を行った結果、市民の健康意識を高める施策の方向性を検討することができ、運動習慣の定着に向けては民間企業の伴走型支援の導入につなげることができた。また、健康づくり推進協議会を開催し、意見を聴取することで、次期プランの策定が完了した。 ●死亡率の高い大腸がんの検診受診率はコロナ禍前を上回り、精密検査については訪問による受診勧奨に切り替え重要性を伝えることができた。また、継続的な保健指導により、Ⅱ度高血圧以上の割合はH30年度の5.4%からR4年度3.0%と減少傾向となっている。 ●短期の課題である上越地域の主要病院閉院に伴う周辺病院への機能移行について具体的な方向性が決定した。また、妙高病院での冬季休日の整形外科外来の継続的な開設支援の実施を行うこととなった。

5 今後の方向性		
区分	選択区分	今後の方向性
庁内評価委員会 I:事業拡大(追加・発展) II:改善(事業内容の見直し) III:継続(現状維持) IV:中止・廃止 V:予定通り事業終了	II	<ul style="list-style-type: none"> ●運動習慣の定着に向けては民間企業と連携し、市民と行政双方が目的を明確にし達成感をもてる施策を検討すること。 ●データヘルス計画にそって優先順位をつけた保健指導を実施するとともに、積極的な受診勧奨を行うこと。 ●地域医療を維持するため、引き続き医師確保の取組を進めること。また、妙高病院の存続に関しては、県構想に関する地域住民の理解促進に努めるとともに、住民ニーズ等を把握し、関係者等と協議すること。
審議会 I:事業拡大(追加・発展) II:改善(事業内容の見直し) III:継続(現状維持) IV:中止・廃止 V:予定通り事業終了	II	<ul style="list-style-type: none"> ●運動習慣の定着に向けては民間企業と連携し、市民と行政双方が目的を明確にし達成感をもてる施策を検討すること。 ●データヘルス計画にそって優先順位をつけた保健指導を実施するとともに、積極的な受診勧奨を行うこと。 ●地域医療を維持するため、引き続き医師確保の取組を進めること。また、妙高病院の存続に関しては、県構想に関する地域住民の理解促進に努めるとともに、住民ニーズ等を把握し、関係者等と協議すること。

令和5年度施策評価(第3次総合計画)

1 施策の概要	
まちづくりの大綱	4 全ての人々が元気に活躍できるまちづくり
基本施策	2 全てを支える地域福祉づくり【福祉介護】
関係課	福祉介護課
主要施策	1 介護予防・高齢者福祉の充実 2 障がい者福祉の充実 3 生活困窮者等の自立支援
   	
R5予算額(千円) 183,177 R5決算額(千円) 154,046	

※矢印は、目標値に対する方向性を示しています。




2 施策目標の達成状況									
指標名	単位	現況値	目標値	目標値の根拠	区分	R4年度	R5年度	目標達成率が70%未満の要因等	
1 要介護認定率	%	20.1	21.6	R7年度22.8%の将来推計であるため、これを下回ることを目指す	実績値	19.5	19.1		
		(H30)	(R5)		目標達成率	112.1%	113.1%		
指標の説明	65歳以上人口における要介護認定者数の割合(予測される増加を抑制)								
2 訪問型サービス・通所型サービス利用者の改善・維持率	%	97.5	97.5	現況値以上を目標とする	実績値	93.2	95.5		
		(H30)	(R5)		目標達成率	95.6%	97.9%		
指標の説明	訪問型サービス・通所型サービス利用者のうち状態が改善・維持している人の割合								
3 地域の茶の間実施数	地区	32	37	毎年度1地区ずつの増加を目指す	実績値	22	21	コロナ流行による茶の間の自粛及び参加者が高齢化しているため。	
		(H30)	(R5)		目標達成率	61.1%	56.8%		
指標の説明	月2回以上開催している地域の茶の間の実施箇所数								
4 生活支援ボランティアの登録支援者数	人	55	75	毎年5人ずつの増加を目指す	実績値	70	71		
		(H30)	(R5)		目標達成率	100.0%	94.7%		
指標の説明	社会福祉協議会において生活支援サービスを提供する有償ボランティア数								
5 障がい者のサービス利用割合	%	21.5	25	手帳保持者数は人口ピジョンの将来推定人口を基に1,805に設定 サービス等利用計画作成件数は障がい福祉計画に定めた目標値472を上回る480に設定	実績値	23.2	24		
		(H30)	(R5)		目標達成率	92.8%	96.0%		
指標の説明	手帳保持者のうちサービス等利用計画を作成した人数の割合								
6 手話奉仕員の人数	人	3	4	現況値から2人増を目標とする	実績値	4	4		
		(H30)	(R5)		目標達成率	100.0%	100.0%		
指標の説明	妙高市手話奉仕員認定者数								
7 市内就労支援施設利用者の工賃月額	円	16,245	18,540	年間約460円増を目標とする ※新潟県工賃向上計画に示す目標値	実績値	15,940	18,539		
		(H30)	(R5)		目標達成率	88.2%	100.0%		
指標の説明	就労継続支援B型利用者の作業工賃月額平均								
8 就労支援による被保護者の就労者数の割合	%	56	76	就労者を前年度比1名増とすることを目標とする	実績値	38.9	24	就労経験が少ないことや希望に合わないなどのことから長続きしないケースが多いため。	
		(H30)	(R5)		目標達成率	54.0%	31.6%		
指標の説明	支援対象者に対する就労者数の割合(年度末現在)								
9 就労支援による保護廃止件数	件	1	3	現況値よりも1~2件増を目標とする	実績値	0	0	就労自体が厳しく、就労したとしても廃止に至る収入を得ることは難しいため。	
		(H30)	(R5)		目標達成率	0.0%	0.0%		
指標の説明	就労支援による就労をきっかけとした保護廃止件数								
10 支援プラン作成件数に対する就労者数の割合	%	50	74	前年度比2名程度増を目標とする(就労者数)	実績値	34.6	29.4	相談者の希望に沿った就労先を見つけることが難しいため。	
		(H30)	(R5)		目標達成率	51.6%	39.7%		
指標の説明	生活困窮者等自立支援事業における支援プラン作成件数に対する就労者数の割合								

3 施策を構成する主な事業				
No.	(事業通番)	関連する 指標No.	R5年度事務事業の事後評価	
	事業名		評価	評価理由
1	(96480)	1,2	維持	<ul style="list-style-type: none"> ●一般介護予防事業の介護予防把握事業・郵送調査により虚弱高齢者の洗い出しを行い、対象者には筋力向上を目的とした短期集中型通所サービスの実利用者は238名とほぼ目標値を達成できた。また、第1号被保険者の介護認定率も令和5年12月末で19.1と目標値を達成することができ、介護予防につながることができた。 ●社会構造の変化に伴い生活習慣や価値観が多様化する中、社会参加を含む高齢者の身体活動の活性化を図るとともに、従来の介護保険制度にとらわれず、状態に合わせた多様なサービスが利用できるようにしていく必要がある。
	介護予防・生活支援サービス事業			R5予算額(千円) 94,860 R5決算額(千円) 78,747
2	(96483)	1,3	維持	<ul style="list-style-type: none"> ●虚弱高齢者や閉じこもり高齢者、栄養該当者を訪問するほか、前年度までの対象者で継続支援が必要な高齢者も訪問し、個々の生活状況や身体状況を把握しながら、教室勸奨につなげることができた。また、介護予防サポーターの養成育成研修を実施し、地域で介護予防普及啓発活動を行うための知識や技術の向上に努めるほか、サポーター座談会を行い、サポーター間の横のつながりを強化することができた。 ●地域の茶の間が行きたいと思える通いの場になっておらず、介護予防活動の選択肢が限定されている。
	一般介護予防事業			R5予算額(千円) 7,146 R5決算額(千円) 6,303
3	(70090)	4	維持	<ul style="list-style-type: none"> ●高齢者や障がい者への見守り支援、災害ボランティアの研修、生活支援ボランティアや相談支援等、社会福祉協議会への助成を通じ、地域福祉の向上に繋げることができた。 ●定年後の働き方の変化、趣味活動の充実等高齢者の生活様式や考え方が多様化しており、見守り支援の新規利用者やボランティア支援者の確保について検討していく必要がある。
	社会福祉協議会助成事業			R5予算額(千円) 40,922 R5決算額(千円) 32,607
4	(71062)	5	維持	<ul style="list-style-type: none"> ●障がい者の相談体制整備や新規の障がい者手帳取得者に対する支援を行った。また、地域活動支援センターにおいて、自立活動や創作活動等の機会を提供し、障がい者の自立促進と居場所づくりに努めた。 ●「こころのままのアート展」を開催し、作品の展示だけでなく、新井高校社会科クラブと連携した取組を実施する中で、障がい者への理解促進が図られた。 ●障がいが多様化してきており、継続して関わりを持ち続ける必要のあるケースが増えている。障がい者本人だけでなく、その家族自体に課題があり、支援が必要である。
	障がい者相談支援事業			R5予算額(千円) 16,206 R5決算額(千円) 16,133
5	(71060)	6,7	維持	<ul style="list-style-type: none"> ●手話奉仕員養成講座を実施し、手話言語への理解と普及に取り組んだ。また、障がい者就労事業所等の受注機会の拡大や、ハローワークなどの関係機関と連携し、一般企業等への就労・雇用への促進を図るなど、多様な形態の就労の場の確保に努めた。 ●聴覚障がい者の日常生活や社会生活を営むうえで、手話により安心して意思の疎通が図られるよう手話奉仕員の継続的な確保と育成と、障がいへの理解の推進を図る必要がある。
	障がい者日常生活支援事業			R5予算額(千円) 17,431 R5決算額(千円) 13,970
6	(93801)	8,9,10	維持	<ul style="list-style-type: none"> ●新規で20人の相談を受け付けたほか、必要な方には支援プランの作成を行った。生活保護受給者における就労支援対象者18人のうち、6人が就労につながった。 ●生活困窮者、生活保護受給者は複合的な問題を抱えており、働くことに慣れていないことが多いため、個々の状況に応じた就労支援が必要である。
	生活困窮者自立支援事業			R5予算額(千円) 6,612 R5決算額(千円) 6,286

4 施策評価		
区分	選択区分	評価理由
A:非常に効果があった B:十分効果があった C:効果があった D:あまり効果がなかった E:効果がなかった	C	<ul style="list-style-type: none"> ●虚弱高齢者の洗い出しを行い、短期集中型通所サービスの利用促進することで筋力向上を行うことができた。また、介護予防サポーターの養成育成研修を実施し、サポーター間の横のつながりを強化することができた。 ●地域活動支援センターにおいて、障がい者の自立活動や創作活動等の機会を提供し、障がい者の自立促進と居場所づくりに努めるとともに、新井高校社会科クラブと連携した取組を行うことで障がいへの理解促進が図られた。 ●妙高市手話言語条例に基づき手話奉仕員養成講座を実施し、手話言語への理解と普及に取り組んだ。 ●必要な方へはプランを作成することで、生活保護受給者における就労支援対象者18人のうち、6人が就労につながった。

5 今後の方向性		
区分	選択区分	今後の方向性
庁内評価委員会 I:事業拡大(追加・発展) II:改善(事業内容の見直し) III:継続(現状維持) IV:中止・廃止 V:予定通り事業終了	III	<ul style="list-style-type: none"> ●地域特性を踏まえつつ、地域団体や企業、行政など多様な主体が連携し、高齢者を支える体制を整備すること。 ●介護における人材不足が懸念されていることから、外国人材を含め、各事業所が行う人材確保に向けた取組を支援すること。 ●元気高齢者を増やすため、生きがいがあるような社会参加の場づくりの検討をおこなうこと。 ●障がい者本人のみではなく、その家族に対しても多様な関わりをもち関係機関と連携した支援をしていくこと。 ●生活困窮者の個々の状況に応じた支援プランを作成し、寄り添った支援を継続していくこと。また、ひきこもりの把握に努め、民間団体と連携した支援を継続していくこと。
審議会 I:事業拡大(追加・発展) II:改善(事業内容の見直し) III:継続(現状維持) IV:中止・廃止 V:予定通り事業終了	III	<ul style="list-style-type: none"> ●地域特性を踏まえつつ、地域団体や企業、行政など多様な主体が連携し、高齢者を支える体制を整備すること。 ●介護における人材不足が懸念されていることから、外国人材を含め、各事業所が行う人材確保に向けた取組を支援すること。 ●元気高齢者を増やすため、生きがいがあるような社会参加の場づくりの検討をおこなうこと。 ●障がい者本人のみではなく、その家族に対しても多様な関わりをもち関係機関と連携した支援をしていくこと。 ●生活困窮者の個々の状況に応じた支援プランを作成し、寄り添った支援を継続していくこと。また、ひきこもりの把握に努め、民間団体と連携した支援を継続していくこと。

令和5年度施策評価(第3次総合計画)

1 施策の概要				
まちづくりの大綱	4	全ての人々が元気に活躍できるまちづくり		
基本施策	3	住民主体の地域づくり【地域づくり】		
関係課	地域共生課			
主要施策	1 地域コミュニティの維持・再生 2 移住・定住による地域の維持			
  				
R5予算額(千円)		174,641	R5決算額(千円)	137,892

※矢印は、目標値に対する方向性を示しています。



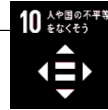

2 施策目標の達成状況									
指標名		単位	現況値	目標値	目標値の根拠	区分	R4年度	R5年度	目標達成率が70%未満の要因等
1	地域運営組織の設立・運営数	組織	4	12	毎年2組織の設立を目標とする	実績値	4	4	地域づくりの専門家などを入れながら組織化を進めているが、地域が主体となった組織化には時間を要するため。
	指標の説明		地域住民が中心となって地域の課題解決に向けた取組を始めた組織数	↑					
2	全住民アンケート等、地域の課題把握を行った地区数	地区	3	12	毎年2地区の増を目標とする	実績値	7	7	アンケート調査を周知しているが、地域で実施しようとする機運は、まだ高まってきていないため実施に至っていないため。
	指標の説明		地域課題を把握するために活動した地区数	↑					
3	課題解決のための将来ビジョンを策定した地区数	地区	1	12	毎年2地区の増を目標とする	実績値	1	1	アンケート調査は、地域の将来を考えるきっかけであり、結果を踏まえて、将来の地域づくりの方向性を共有する必要があるが、ビジョン策定までは至っていないため。
	指標の説明		課題解決に向け、今後の方向性を明確にした地区数	↑					
4	地域づくりコーディネーターの数	人	3	20	53の地域づくり協議会の半数以上にリーダーがいる状態を目指す	実績値	7	7	地域づくりのリーダーとなる人材育成には養成期間が必要であるため。
	指標の説明		地域活動のリーダーであるコーディネーターの数	↑					
5	市内で活動する市民活動団体の数	法人	23	28	認可された組織化を目指し、継続的な活動につなげる	実績値	25	24	
	指標の説明		市内で活動するNPO法人数	↑					
6	移住支援窓口を通じた移住者数	人	437	980	毎年110人の移住を目標とする	実績値	959	1118	
	指標の説明		住宅取得等の支援により移住した人数(H26年度からの累計)	↑					
7	移住・定住を目的とした空き家等の活用数	件	116	270	毎年30件の空き家活用を目標とする	実績値	253	307	
	指標の説明		空き家登録制度に登録された空き家が利用(売却)された件数(H21年度からの累計)	↑					

3 施策を構成する主な事業				
No.	(事業通番)	関連する 指標No.	R5年度事務事業の事後評価	
	事業名		評価	評価理由
1	(101201)	1~5	維持	<ul style="list-style-type: none"> ●地域づくり協働センターに地域支援員を配置し、相談対応や情報発信、講座の開催など地域や団体の支援を行った。 ●地域づくりの専門家と地域運営組織づくりについての勉強会や座談会を実施し、新たな実行組織の立ち上げにつながっている。 ●新たに地域のこし協力隊を寸分道集落に配置し、集落の生活支援や地域活動の維持・活性化を図った。 ●地域づくりに対する意識改革や話し合いの場等の土台づくりを行うための勉強会が一部の地域での開催となっていることから拡大が必要である。
				R5予算額(千円)
2	(108210)	1	維持	<ul style="list-style-type: none"> ●市内全域31か所の初期診断調査を行い、可能性の高い2か所(青田、菅沼)の絞込みを行った。 ●可能性の高い地点を持つ2集落の発電事業への取組意識の醸成が必要である。
				R5予算額(千円)
3	(11029)	-	維持	<ul style="list-style-type: none"> ●組合の設立及び運営支援を行うことで、市内の中小企業(組合員事業所)の人材不足の解消につながるとともに、安定的な雇用環境の確保により、都市部等に住む若い世代の移住定住に結びついている。 ●健全な組合運営を行う上で、市補助金以外の自主財源の確保が必要である。
				R5予算額(千円)
4	(94044・96210)	6	維持	<ul style="list-style-type: none"> ●住宅取得支援の転入者加算を県外から市外に拡大と中古住宅の取得補助を増額したところにより、転入件数が前年度より増加した。 ●UIターン促進住宅支援事業が定着してきたことにより、申請件数が20件を超えた。 ●制度における市の負担が大きいかことや転出するケースもあることから対応を検討する必要がある。
				R5予算額(千円)
5	(50406)	7	維持	<ul style="list-style-type: none"> ●市公式のHPやSNSのほか、移住専門HPを活用し、情報発信の強化を図ったことにより、利用者登録、成約数が増加傾向である。 ●外国人による空き家バンクなどへの問い合わせについては、翻訳アプリや外国人支援協力員を活用し対応してきたが、英語が話せる職員の配置が必要となっている。
				R5予算額(千円)

4 施策評価		
区分	選択区分	評価理由
A:非常に効果があった B:十分効果があった C:効果があった D:あまり効果がなかった E:効果がなかった	C	<ul style="list-style-type: none"> ●地域支援員や地域のこし協力隊の配置、地域運営組織づくりについての勉強会や座談会の開催など、地域活動の維持・活性化を図るため地域や団体への支援を行った。 ●地域づくりには住民の意識改革や課題の把握など継続した取り組みが必要となるため、新たな地域運営組織の設立までには至っていないが、実行組織を立ち上げる動きが出てきている。 ●地域が自らの地域資源を活用して安定的な地域運営を確保するための小水力発電について、市内全域の31か所で初期診断調査を行い、可能性の高い2か所(青田、菅沼)を絞り込んだ。 ●特定地域づくり事業協同組合の設立により、市内中小企業(組合員事業所)の人材不足解消や安定的な雇用環境の確保が図られ、都市部等に住む若い世代の移住定住につながった。 ●転入者やUIターンに向けた住宅取得支援や補助を充実させたことで、転入者は159人増加し、UIターン促進住宅支援事業は20件を超える申請があった。また、空き家に関する情報発信の強化を図ったことで54件の空き家が活用された。

5 今後の方向性		
区分	選択区分	今後の方向性
市内評価委員会 I:事業拡大(追加・発展) II:改善(事業内容の見直し) III:継続(現状維持) IV:中止・廃止 V:予定通り事業終了	III	<ul style="list-style-type: none"> ●地域運営組織の設立に向け、地域課題の解決について地域住民が主体的に考える場づくりを強化すること。 ●2集落の小水力発電が成功事例となるよう、地域住民への意識啓発や機運醸成を図ること。 ●特定地域づくり事業協同組合の健全な組合運営のため、組合員事業所の拡大や自主財源の確保に向けて伴走支援を行うこと。 ●さらなる移住・定住を促進するため、妙高市の魅力発信を強化すること。また、住宅取得等への支援の拡充を検討するとともに、市の財政負担を縮小させるため国庫補助金など財源確保に努めること。
審議会 I:事業拡大(追加・発展) II:改善(事業内容の見直し) III:継続(現状維持) IV:中止・廃止 V:予定通り事業終了	II	<ul style="list-style-type: none"> ●地域運営組織の設立に向け、地域課題の解決について地域住民が主体的に考え、行動を起こすための場づくりへの支援を強化すること。 ●住民主体の地域づくりに必要な財源を確保するため、2集落の小水力発電を成功事例とし、類似取組の波及を図ること。 ●特定地域づくり事業協同組合の健全な組合運営のため、組合員事業所の拡大や自主財源の確保に向けて伴走支援を行うこと。 ●さらなる移住・定住を促進するため、妙高市の魅力発信を強化すること。また、住宅取得等への支援の拡充を検討するとともに、市の財政負担を縮小させるため国庫補助金など財源確保に努めること。

令和5年度施策評価(第3次総合計画)

1 施策の概要			
まちづくりの大綱	4	全ての人が元気に活躍できるまちづくり	
基本施策	4	全ての人が平等な地域社会づくり【人権】	
関係課	市民税務課、生涯学習課、総務課、こども教育課		
主要施策	1 人権意識の向上		
   			
R5予算額(千円)		8,360	R5決算額(千円) 7,874

※矢印は、目標値に対する方向性を示しています。






2 施策目標の達成状況									
指標名		単位	現況値	目標値	目標値の根拠	区分	R4年度	R5年度	目標達成率が70%未満の要因等
1	人権講演会等の参加者数	人	830 (H30)	970 (R5)	現況値から毎年度約35人増を目標とする	実績値	660	433	少子化やコロナにより、集合しての講演会の開催参加は制約があった関係で減少傾向となったため。
	指標の説明 人権講演会等の参加者数		↗			目標達成率	70.6%	44.6%	
2	審議会等への女性登用率	%	31.1 (H30)	39.8 (R5)	現況値から毎年度約1.5%増を目標とする	実績値	31.0	30.0	
	指標の説明 審議会等への女性登用率		↗			目標達成率	80.9%	75.4%	
3	社会通念・習慣しきたりの中で男女平等なまちであると感じている市民の割合	%	17.8 (H30)	24.0 (R5)	市民意識調査の満足度の平均値以上を目標とする	実績値	—	18.5	
	指標の説明 市民意識調査における回答の割合		↗			目標達成率	—	77.1%	
4	いじめが解消された割合	%	100.0 (H30)	100.0 (R5)	発生したいじめの完全解消、発生抑制を目指す	実績値	72.3	89.0	
	指標の説明 学校調査によるいじめ発生件数に対する3カ月以上観察後の解消件数の割合		→			目標達成率	72.3%	89.0%	

3 施策を構成する主な事業						
No.	(事業通番)	関連する 指標No.	R5年度事務事業の事後評価			
	事業名		評価	評価理由		
1	(90082)	1	—	(経常経費のため事後評価対象外)		
	人権啓発活動事業			R5予算額(千円)	962	R5決算額(千円)
2	(30311)	2,3	—	(経常経費のため事後評価対象外)		
	男女共同参画推進事業			R5予算額(千円)	429	R5決算額(千円)
3	(150090)	4	維持	<ul style="list-style-type: none"> ●いじめ・不登校対策に関する取組内容や取組状況についての確認、意見集約の場を設定することにより、取組に関する評価・改善策を明確にすることができた。また、教育支援センターの開設、スクールソーシャルワーカーの配置により、不登校児童生徒へのきめ細やかな直接的支援を実現させることができた。 ●不登校児童生徒への対応や情報モラルやマナーの重要性に関する意識向上については、継続的な取組が必要である。 		
	いじめ・不登校対策推進事業			R5予算額(千円)	6,969	R5決算額(千円)

4 施策評価		
区分	選択区分	評価理由
A:非常に効果があった B:十分効果があった C:効果があった D:あまり効果がなかった E:効果がなかった	C	<ul style="list-style-type: none"> ●県事業を活用した講演会や子どもへの暴力防止プログラムの実施など教育現場とのタイアップによる人権教育事業に取り組み、小・中学校において児童生徒の人権に対する意識を高めた。 ●男女共同フォトコンテストの開催などを通じて男女共同参画を身近なものとして感じてもらうことができた。 ●まなびの杜において人権教育、男女共同参画の講座を設定し、市民が学ぶ機会を作った。 ●2～3か月毎に把握していたいじめの発生状況を随時把握にしたことにより、早期解決につながった。 ●不登校生徒が増加している新井中学校の不登校教室に教育支援センター指導員を配置し、不登校対策が図られた。

5 今後の方向性		
区分	選択区分	今後の方向性
庁内評価委員会 I:事業拡大(追加・発展) II:改善(事業内容の見直し) III:継続(現状維持) IV:中止・廃止 V:予定通り事業終了	III	<ul style="list-style-type: none"> ●人権問題が複雑・多様化していることから、第4次妙高市人権教育・啓発基本計画では、LGBTQIA+等の新たな課題に関しても計画に位置づけていくこと。 ●妙高市独自のパートナーシップ制度(事実婚含む)についての必要性を検討すること。 ●男女共同参画計画(男女が共にあゆむパートナープラン)の見直しを踏まえ、これまでの取組を検証し、効果的な取組を検討すること。 ●人権尊重、男女共同参画の重要性に対する理解を深めてもらうため、引き続き市民への意識啓発に努めること。 ●不登校の要因が複雑・多様化していることから、個々に寄り添った支援を行うこと。 ●ICTを適切に利用するため、児童生徒、教員だけでなく、保護者の情報モラルを高めること。
審議会 I:事業拡大(追加・発展) II:改善(事業内容の見直し) III:継続(現状維持) IV:中止・廃止 V:予定通り事業終了	III	<ul style="list-style-type: none"> ●人権問題が複雑・多様化していることから、第4次妙高市人権教育・啓発基本計画では、LGBTQIA+等の新たな課題に関しても計画に位置づけていくこと。 ●妙高市独自のパートナーシップ制度(事実婚含む)についての必要性を検討すること。 ●男女共同参画計画(男女が共にあゆむパートナープラン)の見直しを踏まえ、これまでの取組を検証し、効果的な取組を検討すること。 ●人権尊重、男女共同参画の重要性に対する理解を深めてもらうため、引き続き市民への意識啓発に努めること。 ●不登校の要因が複雑・多様化していることから、個々に寄り添った支援を行うこと。 ●ICTを適切に利用するため、児童生徒、教員だけでなく、保護者の情報モラルを高めること。

令和5年度施策評価(第3次総合計画)

1 施策の概要										
まちづくりの大綱	5	郷土を築く人と文化を育むまちづくり								
基本施策	1	安心して子どもを育てられる環境づくり【子育て】								
関係課	地域共生課、健康保険課、こども教育課				1 貧困をなくそう	2 飢餓をゼロに	3 すべての人に健康と福祉を	4 質の高い教育をみんなに	8 働きがいも経済成長も	
主要施策	1 結婚・出産・子育て支援の充実 2 幼児の教育・保育環境の充実									
					R5予算額(千円)	746,663	R5決算額(千円)	683,957		

※矢印は、目標値に対する方向性を示しています。

※指標9は目標達成率がマイナスとなるため、0%と表記しています。

2 施策目標の達成状況									
指標名	単位	現況値	目標値	目標値の根拠	区分	R4年度	R5年度	目標達成率が70%未満の要因等	
1 出産や子育て支援サービスの満足度	%	75.5	80.0	5年間で5%増を目標とする	実績値	-	83.1		
		(H30)	(R5)		目標達成率	-	103.9%		
指標の説明	子ども・子育て支援に関するアンケートにおける回答の割合								
2 市の事業を通じての成婚数	組	-	16	年間4組の成婚数を目標とする	実績値	13	16		
		(H30)	(R5)		目標達成率	108.3%	100.0%		
指標の説明	マッチング支援等の市の事業を利用したかたの成婚数								
3 安心して妊娠・出産を迎えられる妊婦の割合	%	-	100	出産した妊婦全員が安心してという結果を目指す	実績値	86.4	88.1		
		(H30)	(R5)		目標達成率	86.4%	88.1%		
指標の説明	出生届出時のアンケートによる回答の割合								
4 ファミリー・サポート・センターのサービス提供会員数	人	165	194	毎年度約4%の増加を目指す	実績値	186	191		
		(H30)	(R5)		目標達成率	98.9%	98.5%		
指標の説明	ファミリー・サポート・センターのサービスを提供できる会員数								
5 虐待案件の解決数	件	13	18	現況値から毎年度約1%増を目標とする	実績値	32	27		
		(H30)	(R5)		目標達成率	188.2%	150.0%		
指標の説明	要保護児童対策地域協議会の虐待案件の解決数								
6 園運営に満足している保護者の割合	%	96.8	100	保護者全員の満足を目指す	実績値	95.7	97		
		(H30)	(R5)		目標達成率	95.7%	97.0%		
指標の説明	保護者アンケートにおける回答の割合								
7 園舎整備率	%	70	100	R6までの幼稚園・保育園整備構想に基づく新設の統合園を3園とすることを目標とする	実績値	100	100		
		(H30)	(R5)		目標達成率	100.0%	100.0%		
指標の説明	幼稚園・保育園整備構想に基づく園舎整備率								
8 待機児童の発生人数	人	0	0	待機児童を発生させないことを目指す(0人を維持する)	実績値	0	0		
		(H30)	(R5)		目標達成率	100.0%	100.0%		
指標の説明	待機児童の発生人数								
9 標準的な体格の園児の割合	%	94.9	96.5	現況値から毎年度約0.5%増を目標とする	実績値	93.1	94.3		
		(H30)	(R5)		目標達成率	97.0%	97.7%		
指標の説明	肥満度-15%~+15%の園児の割合								
10 朝食の欠食率	%	1	1	現況値以下を目標とする	実績値	1.8	2.4	「用意しても食べない」や「家族が食べない家庭が多いこと」という児童が多いため。	
		(H30)	(R5)		目標達成率	0.0%	0.0%		
指標の説明	3~5歳児の朝食の欠食率								

3 施策を構成する主な事業						
No.	(事業通番)	関連する 指標No.	R5年度事務事業の事後評価			
	事業名		評価	評価理由		
1	(90084)	2	維持	<ul style="list-style-type: none"> ●テーマ型イベントや少人数パーティーなど各種婚活イベントを実施し、年間の成婚は2組であった。 ●結婚新生活支援事業は、29歳以下の新婚夫婦5組から申請があった。 ●相談業務や会員登録の面談などの負担が増加していることからスタッフの増員が必要である。 		
	妙高出会いサポート事業			R5予算額(千円)	1,691	R5決算額(千円)
2	(71271)	4	—	(経常経費のため事後評価対象外)		
	子ども家庭総合支援拠点運営事業			R5予算額(千円)	29,394	R5決算額(千円)
3	(71282)	1,3,5	維持	<ul style="list-style-type: none"> ●妙高子育て広場の開設時間以外を一般開放し、新井地域以外にも子どもと保護者が天候に左右されることなく安全に過ごすことができる居場所の確保に努めた。 ●子育て広場の利用条件の見直しなど、利用者のニーズに合わせた柔軟な対応を検討する必要がある。 		
	みんなで子育て応援事業			R5予算額(千円)	12,510	R5決算額(千円)
4	(96865)	6, 8, 9,10	維持	<ul style="list-style-type: none"> ●増加する乳児や支援児への細やかな対応や自然体験活動、特色ある園活動などを通じた、豊かな人間性と生きる力の育成を図った。 ●保育職員の人材不足による精神的なゆとりのなさによる療養休暇や急な離職をする者も発生していることから、求人方法を工夫して通年で実施するとともに、ICTの活用など、保育職員の負担軽減の取組も継続する必要がある。 		
	認定子ども園・保育園運営事業			R5予算額(千円)	647,240	R5決算額(千円)
5	(96868)	7	拡大	<ul style="list-style-type: none"> ●施設機能の確保や延命化、園児等が快適かつ安全に活動を行える環境の充実を図った。 ●和田地区で進む宅地開発の影響により、和田にじいりこども園の3歳未満児の入園数が増加し、定員超過していることから、同地区の入園希望者全員を受け入れられるようにする必要がある。 		
	認定子ども園・保育園園舎等整備事業			R5予算額(千円)	15,591	R5決算額(千円)
6	(71970)	3	拡大	<ul style="list-style-type: none"> ●子育て・出産応援給付金と伴走型相談支援の一体的な実施により、全ての妊産婦に面談を行うことができ、早期支援につながった。 ●新たに導入した3歳児の屈折検査では、要精密検査が増加(0.62%→6.6%)し疾病の早期発見につながった。 ●出生数は減少しているが、支援を必要とする児や保護者が増加している。基本となる生活リズムの確立や子育て方法など、引続ききめ細やかな支援が必要である。 		
	すくすく親子健康づくり事業 (繰越分を含む)			R5予算額(千円)	40,237	R5決算額(千円)

4 施策評価		
区分	選択区分	評価理由
A:非常に効果があった B:十分効果があった C:効果があった D:あまり効果がなかった E:効果がなかった	B	<ul style="list-style-type: none"> ●多彩な出会いの機会を提供したことにより、2組の成婚につながった。 ●女性限定イベントにより、みょうこう出会いサポートセンターの女性会員数が増加した。 ●低所得の子育て世帯や高校生・大学生等の保護者に対する経済的支援を行った。 ●特色ある園活動の実施や、保護者に寄り添ったきめ細かい子育て支援を行うとともに、ICTの活用による保育士の負担軽減と効率的な園運営が図られた。 ●給食費の無料化により保護者の負担軽減が図られた。 ●安心して出産を迎え、子どもの健やかな成長・発達を支えられるよう、適切な時期での面談や切れ目のない伴走型相談支援を行った。 ●妊産婦の経済的支援を充実し、子どもを産み育てやすい環境を整備した。

5 今後の方向性		
区分	選択区分	今後の方向性
庁内評価委員会 I:事業拡大(追加・発展) II:改善(事業内容の見直し) III:継続(現状維持) IV:中止・廃止 V:予定通り事業終了	I	<ul style="list-style-type: none"> ●結婚活動事業を充実させるためスタッフの増員に努めること。 ●こども家庭センター設置による妊産婦、子育て世帯、子どもへ一体的で切れ目ない支援を行うこと。 ●保育職員の人材不足を解消するため、ICTの活用、事務職員の配置などによる職場環境の改善を図ること。また、SNSや動画配信などを活用した求人活動を検討すること。 ●和田地区における3歳未満児の入園希望者をすべて受け入れられるよう、環境整備を進めること。
審議会 I:事業拡大(追加・発展) II:改善(事業内容の見直し) III:継続(現状維持) IV:中止・廃止 V:予定通り事業終了	I	<ul style="list-style-type: none"> ●結婚活動事業を充実させるためスタッフの増員に努めること。 ●こども家庭センター設置による妊産婦、子育て世帯、子どもへ一体的で切れ目ない支援を行うこと。 ●保育職員の人材不足を解消するため、ICTの活用、事務職員の配置などによる職場環境の改善を図ること。また、SNSや動画配信などを活用した求人活動を検討すること。 ●今後の園児数を見据え、入園希望者をすべて受け入れられるよう、環境整備を進めること。

令和5年度施策評価(第3次総合計画)

1 施策の概要			
まちづくりの大綱	5	郷土を築く人と文化を育むまちづくり	
基本施策	2	質の高い教育環境づくり【教育】	
関係課	こども教育課		
主要施策	1 健やかな心と体の育成 2 確かな学力の定着に向けた支援 3 学習環境の整備		
R5予算額(千円)		588,516	R5決算額(千円) 552,300

※矢印は、目標値に対する方向性を示しています。

※指標2は目標達成率がマイナスとなるため、0%と表記しています。





2 施策目標の達成状況									
指標名		単位	現況値	目標値	目標値の根拠	区分	R4年度	R5年度	目標達成率が70%未満の要因等
1	いじめが解消された割合	%	97.3 (H30)	100 (R5)	発生したいじめの完全解消、発生抑制を目指す	実績値	72.3	89	
	指標の説明 学校調査によるいじめ発生件数に対する3カ月以上観察後の解消件数の割合		↗	目標達成率		72.3%	89.0%		
2	肥満度が20%以上の児童生徒の割合	%	7.4 (H30)	7.1 (R5)	現況値から0.4%減を目標とする	実績値	9.0	8.6	肥満児の増加・活動量の低下してるため
	指標の説明 学校健診による肥満度20%以上の児童生徒の割合		↘	目標達成率		0.0%	0.0%		
3	全国標準学力検査(NRT)の得点率が全国平均を超えた割合(国語)	%	100 (H30)	100 (R5)	100%の維持を目指す	実績値	90.9	80	
	指標の説明 全国標準学力検査の観点別集計で全国平均を上回った割合(国語)		→	目標達成率		90.9%	80.0%		
4	全国標準学力検査(NRT)の得点率が全国平均を超えた割合(算数・数学)	%	100 (H30)	100 (R5)	100%の維持を目指す	実績値	54.5	60	学校・学年間の差が大きく、児童生徒が苦手な領域が克服されていないため。
	指標の説明 全国標準学力検査の観点別集計で全国平均を上回った割合(算数・数学)		→	目標達成率		54.5%	60.0%		
5	全国標準学力検査(NRT)の得点率が全国平均を超えた割合(英語)	%	100 (H30)	100 (R5)	100%の維持を目指す	実績値	67	33	学校・学年間の差が大きく、学習指導要領に即した授業改善が十分進んでいないため。
	指標の説明 全国標準学力検査の観点別集計で全国平均を上回った割合(英語)		→	目標達成率		66.7%	33.3%		
6	外国人と関わる活動に参加した児童生徒の割合	%	13 (H30)	21 (R5)	年2%の増を目標とする	実績値	3	38.1	
	指標の説明 外国人と関わる活動に参加した児童生徒数が全児童生徒数に占める割合		↗	目標達成率		15.8%	181.4%		
7	長寿命化改修・大規模改造工事の実施校数	校	— (H30)	12 (R5)	学校施設長寿命化計画より	実績値	4	5	他に優先する工事があったことや、計画していた施設の経年劣化の状況を見極め、工事を先送りしたため。
	指標の説明 学校施設長寿命化計画に基づく改修・改造工事延べ実施校数		↗	目標達成率		36.4%	41.7%		
8	特別教室への冷房設備設置工事の実施校数	校	— (H30)	11 (R5)	学校施設長寿命化計画より	実績値	11	11	
	指標の説明 整備計画に基づく設置工事の実施校数		↗	目標達成率		100.0%	100.0%		

3 施策を構成する主な事業				
No.	(事業通番)	関連する 指標No.	R5年度事務事業の事後評価	
	事業名		評価	評価理由
1	(150090)	1	維持	<ul style="list-style-type: none"> ●いじめ・不登校対策に関する取組内容や取組状況についての確認、意見集約の場を設定することにより、取組に関する評価・改善策を明確にすることができた。また、教育支援センターの開設、スクールソーシャルワーカーの配置により、不登校児童生徒へのきめ細やかな直接的支援を実現させることができた。 ●不登校児童生徒への対応や情報モラルやマナーの重要性に関する意識向上については、継続的な取組が必要である。
	いじめ・不登校対策推進事業			R5予算額(千円) 6,969 R5決算額(千円) 6,736
2	(150360・150780)	3,4	維持	<ul style="list-style-type: none"> ●放課後等学習支援事業や教育補助員の補充等により、子どもの学びを支援・補充する体制を構築することができた。また、読解力向上やICT利活用、主体的・対話的で深い学びに関する授業、自由進度学習等々、教職員の指導力向上を目指した研修や校内研究支援を充実させることができた。 ●指標としたNRT全国検査の数値は年々低下傾向にあり、各教科・領域で身に付けるべき知識・技能を着実に身に付けさせる必要がある。
	基礎学力向上支援事業			R5予算額(千円) 31,799 R5決算額(千円) 28,675
3	(150890)	5,6	維持	<ul style="list-style-type: none"> ●授業改善を支援し、楽しみながら英語で友達と関わろうとする児童生徒が増えてきた。また、GTECの実施により英語の学力実態が明らかとなり、それ踏まえて「授業づくりのポイント」を作成し、市内の全小中学校に配付し、その活用を促した。 ●中学生における英語学習に対する肯定的な評価が低く、ALTの活用度も低い。「授業づくりのポイント」を生かした授業改善が必要である。
	英語教育支援事業			R5予算額(千円) 52,859 R5決算額(千円) 48,993
4	(150340・150760)	7,8	維持	<ul style="list-style-type: none"> ●関係者と定期的な打合せを行い、計画的な実施により、安全・安心で快適な教育環境を整備することができた。 ●点検を踏まえ、施設の経年劣化等の進行状況を的確に把握し、計画的に改修工事や設備の更新を行い、長寿命化を図る必要がある。
	小学校大規模改修事業・中学校大規模改修事業			R5予算額(千円) 208,300 R5決算額(千円) 186,039
5	(150209)	2	—	(経常経費のため事後評価対象外)
	学校給食運営・食育推進事業			R5予算額(千円) 288,589 R5決算額(千円) 281,859

4 施策評価		
区分	選択区分	評価理由
A:非常に効果があった B:十分効果があった C:効果があった D:あまり効果がなかった E:効果がなかった	B	<ul style="list-style-type: none"> ●基礎学力が年々低下傾向にあることから、放課後等学習支援事業や教育補助員の補充等により、子どもの学びを支援・補充した。 ●デジタルドリルや民間企業によるプログラミング教育を活用することにより、個別最適な学びと協働的な学びが一体的に充実し、授業改善につながった。 ●GTECにより市内小中学生の英語力を分析し、効果的な授業を実施するための「授業づくりのポイント」を作成することができた。 ●給食費の無料化により、保護者の負担軽減が図られた。

5 今後の方向性		
区分	選択区分	今後の方向性
庁内評価委員会 I:事業拡大(追加・発展) II:改善(事業内容の見直し) III:継続(現状維持) IV:中止・廃止 V:予定通り事業終了	III	<ul style="list-style-type: none"> ●NRT全国検査の数値が低下していることから、各教科・領域で身に付けるべき知識・技能を着実に身に付けさせること。 ●「令和の日本型学校教育」の構築が提唱される中で、妙高市の子どもに身に付けさせたい学力が何かを市として明らかにすること。 ●今後の児童生徒数を見据え、老朽化している校舎の改修等の計画を明らかにすること。
審議会 I:事業拡大(追加・発展) II:改善(事業内容の見直し) III:継続(現状維持) IV:中止・廃止 V:予定通り事業終了	III	<ul style="list-style-type: none"> ●NRT全国検査の数値が低下していることから、各教科・領域で身に付けるべき知識・技能を着実に身に付けさせること。 ●「令和の日本型学校教育」の構築が提唱される中で、妙高市の子どもに身に付けさせたい学力が何かを市として明らかにすること。 ●今後の児童生徒数を見据え、老朽化している校舎の改修等の計画を明らかにすること。 ●児童生徒の思考力や判断力、表現力などを育成するため探究的な学びに取り組むこと。

令和5年度施策評価(第3次総合計画)

1 施策の概要				
まちづくりの大綱	5	郷土を築く人と文化を育むまちづくり		
基本施策	3	豊かな心身をつくる環境づくり【生涯学習・スポーツ】		
関係課	生涯学習課			
主要施策	1 人生100年時代の生涯学習の推進 2 生涯を通じたスポーツ活動の推進			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>3 すべての人に健康と福祉を</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>4 質の高い教育をみんなに</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>11 住み続けられるまちづくりを</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>17 パートナシップで目標を達成しよう</p> </div> </div>				
R5予算額(千円)		1,196,431	R5決算額(千円)	1,080,106

※矢印は、目標値に対する方向性を示しています。




2 施策目標の達成状況									
指標名		単位	現況値	目標値	目標値の根拠	区分	R4年度	R5年度	目標達成率が70%未満の要因等
1	社会教育施設利用者数	人	165,812 (H30)	169,153 (R5)	現況値から毎年約0.5%増とし、170,000人を目標とする	実績値	165,541	154,546	
	指標の説明		社会教育施設の年間延べ利用者数	↑		目標達成率	98.4%	91.4%	
2	「オール妙高あいさつ運動」の参加者数	人	777 (H30)	875 (R5)	毎年25人増とし、900人を目標とする	実績値	525	588	少子化や通学がスクールバス化したことにより、運動への参加を見送る地域が増加傾向にあるため。
	指標の説明		あいさつ運動の1日あたりの参加者数	↑		目標達成率	61.8%	67.2%	
3	「妙高市民の心」推進応援事業所の登録件数	件	121 (H30)	161 (R5)	毎年10件増とし、170件を目標とする	実績値	145	144	
	指標の説明		事業所の登録件数	↑		目標達成率	96.0%	89.4%	
4	生涯学習講座「まなびの杜」の参加者数	人	1,001 (H30)	1,600 (R5)	毎年概ね1割増とし、1,800人を目標とする	実績値	681	294	コロナや社会的課題(男女共同参画、SDGsなど)を加えたことにより受講者離れが生じたため。
	指標の説明		生涯学習講座の年間延べ受講者数	↑		目標達成率	46.6%	18.4%	
5	地域活動人材登録者数	人	326 (H30)	385 (R5)	毎年15人増を目標とする	実績値	300	402	
	指標の説明		地域活動人材の登録者数	↑		目標達成率	81.1%	104.4%	
6	図書館の貸出利用者数	人	27,477 (H30)	27,900 (R5)	現況値の概ね1.5倍の利用者数を目標とする	実績値	23,368	22,996	
	指標の説明		図書館の年間延べ貸出利用者数	↑		目標達成率	84.1%	82.4%	
7	成人における週1回以上のスポーツや運動の実施率	%	27.4 (H30)	50 (R5)	市民の2人に1人が実施することを目標とする	実績値	-	-	
	指標の説明		市民意識調査における回答の割合	↑		目標達成率	-	-	
8	総合型地域スポーツクラブの利用者数	人	4,342 (H30)	4,560 (R5)	市民の運動習慣の定着やスポーツ実施率の向上により、毎年約1.0%の増を目標とする	実績値	2,443	2,353	コロナ禍による施設の休館などによる利用者の減少から、施設再開後も利用者が完全には戻らないため。
	指標の説明		総合型地域スポーツクラブの年間延べ利用者数	↑		目標達成率	54.2%	51.6%	
9	ジュニア競技者の大会出場率	%	10 (H30)	10.9 (R5)	現況の県大会以上の出場者数(219人)を維持していくことを目標とする	実績値	5.97	8.2	
	指標の説明		市内小中学生のうち県大会以上の大会に出場した者の割合	↑		目標達成率	55.3%	75.2%	
10	スポーツ施設の利用者数	人	326,712 (H30)	337,000 (R5)	施設の市民利用を現行0.4%/年から0.5%/年に増加させるほか、合宿利用を計画期間内で3,000人程度の増を目標とする	実績値	235,765	254,783	
	指標の説明		スポーツ施設の年間延べ利用者数	↑		目標達成率	70.4%	75.6%	

3 施策を構成する主な事業				
No.	(事業通番)	関連する 指標No.	R5年度事務事業の事後評価	
	事業名		評価	評価理由
1	(160130)	6	維持	<ul style="list-style-type: none"> ●用地買収、物件補償、施設整備工事発注を計画どおりに進めることができた。また、管理運営方針を定め、議会への説明、市民への周知を行うことができた。 ●図書館及びカフェ運営予定者決定や市民とのワークショップ開催、愛称募集、図書館協議会設置に向けた準備など、供用開始に向け多くの準備が必要である。
	新図書館等複合施設整備事業			R5予算額(千円) 981,809 R5決算額(千円) 888,126
2	(93567)	1,4,5	維持	<ul style="list-style-type: none"> ●学びの杜を実施し、生涯学習の推進及び、SDGsや人権など社会的課題の理解拡大を図ることができた。 ●コロナ禍の影響などにより、まなびの杜の参加者が伸び悩んでいる。地域活動人材制度を活用する町内会が少ない状況にある。
	生涯学習推進事業			R5予算額(千円) 5,653 R5決算額(千円) 5,042
3	(170070)	7,8,10	維持	<ul style="list-style-type: none"> ●総合型地域スポーツクラブにおける各種スポーツ教室やジュニアスポーツクラブの活動実施を通じて、子供から高齢者まで様々な世代に対し多種多様な運動機会を提供することができた。 ●生涯スポーツ大会やイベントの開催、ウォーキング教室等の実施により、スポーツや運動の実施人口の回復につながった。 ●スポーツ離れや人口減少による、各種スポーツイベント等への参加者減少の解決に向けた取り組みが必要である。また、健康ウォーキングについて、市民への啓発を積極的に行うとともに、市全体の機運醸成を図る必要がある。
	スポーツタウンづくり推進事業			R5予算額(千円) 14,452 R5決算額(千円) 12,908
4	(170090)	9,10	—	(経常経費のため事後評価対象外)
	競技スポーツ推進事業			R5予算額(千円) 1,992 R5決算額(千円) 1,840
5	(170150)	9,10	維持	<ul style="list-style-type: none"> ●強化指定選手36人中17人が全国大会に出場するなど、スキー競技の競技力向上に寄与することができた。妙高サマージャンプ大会も4年ぶりに開催するなど、実施された各種スキー大会対して適切に支援を行い、競技スキーの振興を図ることができた。 ●少子化等の影響により、競技スキー人口の減少に歯止めをかけるため、選手の発掘・育成・強化を図る必要がある。また、スキー関係団体の高齢化等による指導者不足が進行しており、安定した指導体制の整備に向け支援する必要がある。
	スキーのまち妙高推進事業			R5予算額(千円) 12,050 R5決算額(千円) 12,049
6	(170212)	10	維持	<ul style="list-style-type: none"> ●妙高高原スポーツ公園野球場と新井グリーンスポーツセンターの計画的な改修の実施や妙高ふれあいパークと新井総合公園の設備を更新し、利用者が安心・安全に活動ができる環境の確保を図った。 ●スポーツ施設の老朽化が進んでおり、適切な維持管理のほか、計画的な修繕や改修等を行い、利用者が安心・安全で快適に活動できる環境づくりと施設の長寿命化を検討していく必要がある。
	スポーツ施設整備事業			R5予算額(千円) 180,475 R5決算額(千円) 160,141

4 施策評価		
区分	選択区分	評価理由
A:非常に効果があった B:十分効果があった C:効果があった D:あまり効果がなかった E:効果がなかった	C	<ul style="list-style-type: none"> ●新図書館等複合施設の整備に向けて、用地買収、物件補償、施設整備工事発注を実施した。 ●「まなびの社」を現地とオンラインでの受講と組み合わせて実施した。人権や男女共同参画、SDGs等の社会問題を新たなテーマにした講座を行った。 ●ポッチャ大会や車いすバスケットボール体験会の実施による障がい者スポーツに対する理解促進を図るとともに、新たな生涯スポーツの普及・定着に向けてスケートボード体験会を実施した。 ●妙高サマージャンプ大会を4年ぶりに開催するなど、各種スキー大会に対し支援を行った。

5 今後の方向性		
区分	選択区分	今後の方向性
庁内評価委員会 I:事業拡大(追加・発展) II:改善(事業内容の見直し) III:継続(現状維持) IV:中止・廃止 V:予定通り事業終了	III	<ul style="list-style-type: none"> ●新図書館等複合施設については、設置目的の達成に向け、機能を最大限に活かすための管理運営体制とするとともに、中心市街地の活性化につながるよう、地域の住民や団体等と連携した取組を検討すること。 ●「まなびの社」については、生涯学習や学び直しのほか、住民主体の地域課題解決につながるような内容とするとともに、参加者の増加に向けた環境づくりと情報発信に努めること。 ●ウォーキングの日の設定による啓発やイベントの開催などを通じ、ウォーキングの推進による市民の健康と運動習慣の定着を図ること。 ●休日における部活動の地域移行に向け、受け皿となる組織の強化・創出と指導者の確保・指導力の向上に努めること。
審議会 I:事業拡大(追加・発展) II:改善(事業内容の見直し) III:継続(現状維持) IV:中止・廃止 V:予定通り事業終了	III	<ul style="list-style-type: none"> ●新図書館等複合施設については、設置目的の達成に向け、機能を最大限に活かすための管理運営体制とするとともに、中心市街地の活性化につながるよう、地域の住民や団体等と連携した取組を検討すること。 ●「まなびの社」については、生涯学習や学び直しのほか、住民主体の地域課題解決につながるような内容とするとともに、参加者の増加に向けた環境づくりと情報発信に努めること。 ●ウォーキングの日の設定による啓発やイベントの開催などを通じ、ウォーキングの推進による市民の健康と運動習慣の定着を図ること。 ●休日における部活動の地域移行に向け、受け皿となる組織の強化・創出と指導者の確保・指導力の向上に努めること。

令和5年度施策評価(第3次総合計画)

1 施策の概要			
まちづくりの大綱	5	郷土を築く人と文化を育むまちづくり	
基本施策	4	郷土愛を育む文化のまちづくり【文化】	
関係課	生涯学習課		
主要施策	1 歴史文化資源の保存と活用		
  			
R5予算額(千円)		12,593	R5決算額(千円) 11,701

※矢印は、目標値に対する方向性を示しています。

2 施策目標の達成状況									
指標名		単位	現況値	目標値	目標値の根拠	区分	R4年度	R5年度	目標達成率が70%未満の要因等
1	歴史・芸術文化拠点の来場者数	人	33,886 (H30)	36,400 (R5)	現況値から概ね10%増を目標とする	実績値	47,716	40,949	
	指標の説明		↗			目標達成率	133.3%	112.5%	
2	歴史文化保存活用計画を策定し、地域活性化事業に取り組む地区数	地区	— (H30)	3 (R5)	R3年までに重点3地区の計画を策定し、R6年までに新たに1地区の計画を策定する	実績値	3	4	
	指標の説明		↗			目標達成率	100.0%	100.0%	
3	指定・登録文化財数	件	85 (H30)	89 (R5)	毎年1物件増を目標とする	実績値	89	89	
	指標の説明		↗			目標達成率	101.1%	100.0%	
4	美術展覧会の出品数	点	272 (H30)	295 (R5)	現況値から概ね10%増を目標とする	実績値	329	344	
	指標の説明		↗			目標達成率	113.4%	116.6%	

3 施策を構成する主な事業				
No.	(事業通番)	関連する 指標No.	R5年度事務事業の事後評価	
	事業名		評価	評価理由
1	(160355)	1~3	維持	<ul style="list-style-type: none"> ●天神社の大スギを対象とした保存活用計画を策定し、地域総がかりで文化財の保存と活用に取り組むための全体方針や今後の具体的な措置を明確にした。また、斐太歴史の里の文化史の児童普及絵本の発行に向けて40点の挿絵を制作した。 ●市内3地区において策定している保存活用計画のさらなる推進に向けて、地元住民による主体的な活動を引き出すために人材の育成に力を注いでいく必要がある。
	妙高歴史遺産活用推進事業			
2	(160336)	1,4	維持	<ul style="list-style-type: none"> ●芸術祭の開催等を通して、市民に芸術の鑑賞や発表の機会を提供することができた。また、文化ホール開館40周年記念音楽祭、東京藝大吹奏楽クリニック等を開催し、市民に対して質の高い音楽鑑賞の機会を提供した。 ●芸術祭全体で見ると、来場者数は16,460人(-4,666人)、出品数は1,920点(-84点)といずれも前年度から減少しており、特に減少が著しい部門に対しては、これまでとは異なるアプローチが必要である。
	アートステージ妙高推進事業			

4 施策評価		
区分	選択区分	評価理由
A:非常に効果があった B:十分効果があった C:効果があった D:あまり効果がなかった E:効果がなかった	C	<ul style="list-style-type: none"> ●天神社の大スギの保存活用計画を策定し、地域での文化財の保存と地域活性化の意識向上と今後の取り組みについて共有することができた。 ●芸術祭の来場者数は昨年度より減少したものの例年の並みの来場者があった。妙高市展においては、出品数が6部門全体で計250点と過去最高となり、実行委員会の働きかけやこれまで継続してきた努力が成果に現れている。

5 今後の方向性		
区分	選択区分	今後の方向性
庁内評価委員会 I:事業拡大(追加・発展) II:改善(事業内容の見直し) III:継続(現状維持) IV:中止・廃止 V:予定通り事業終了	III	<ul style="list-style-type: none"> ●関川関所道の歴史館が旅の目的地に選ばれる新たな施設へと転換するようにリニューアル基本計画を策定すること。 ●四季彩芸術展において妙高戸隠連山国立公園も題材となっていることから、長野へのPR活動を強化し、来場客の増加に取り組むこと。 ●文化芸術基本計画の策定に向け、準備を進めること。
審議会 I:事業拡大(追加・発展) II:改善(事業内容の見直し) III:継続(現状維持) IV:中止・廃止 V:予定通り事業終了	III	<ul style="list-style-type: none"> ●関川関所道の歴史館が旅の目的地に選ばれる新たな施設へと転換するようにリニューアル基本計画を策定すること。 ●四季彩芸術展において妙高戸隠連山国立公園も題材となっていることから、長野へのPR活動を強化し、出品者数と来場客の増加を図ること。 ●文化芸術基本計画の策定に向け、準備を進めること。